

男女共同参画に向けた教育・社会支援に関わる特別調査研究

～女性が地域おこしやまちづくりに参画するための
学習支援のあり方～

平成 21 年 3 月

株式会社 グランドワークス

目 次

1. 調査研究の概要	1
1－1. 調査研究の目的.....	1
(1) 調査研究テーマに対する認識.....	1
(2) 本調査研究の目的.....	1
1－2. 調査の概要.....	3
(1) 女性まちづくりリーダー・ヒアリング調査.....	3
(2) 全国市町村・都道府県実態調査.....	4
(3) アドバイザーヒアリング調査.....	5
2. 調査研究結果.....	6
2－1. 女性まちづくりリーダー・ヒアリング調査結果	6
(1) 女性まちづくりリーダーの活動参加のきっかけ	6
(2) リーダーになっていった経緯.....	7
(3) リーダーの資質.....	7
(4) まちづくり活動での支援を求める場面	8
(5) 女性主体の活動のメリット	9
(6) 行政との関わり	10
(7) ヒアリング結果とりまとめ	12
3. 市区町村・都道府県の取り組み.....	26
3－1. 市区町村の取り組み	26
(1) 地域おこしやまちづくりの学習機会.....	26
(2) 連携・協働する団体	27
(3) 参加状況	27
(4) 受講や参加の動向.....	28
(5) 事業の成果.....	28
(6) 女性を対象とする学習機会	29
(7) 女性を対象とした学習機会の提供に対する成果	29
(8) 地域おこしやまちづくりにおける女性の参加状況.....	30
(9) 女性まちづくりリーダーやグループについて望むこと.....	30
(10) 女性のまちづくりリーダーやグループに期待する活動	31
(11) 人口規模別にみた取り組みの状況	32
(12) 女性を対象とした学習機会の提供にあたっての課題.....	35

3-2. 都道府県の取り組み	37
(1) 地域おこしやまちづくりの学習機会	37
(2) 連携・協働する団体	38
(3) 参加状況	38
(4) 受講や参加の動向	39
(5) 事業の成果	39
(6) 女性を対象とする学習機会	40
(7) 女性を対象とした学習機会の提供に対する成果	40
(8) 地域おこしやまちづくり活動における女性の参加状況	41
(9) 女性まちづくりリーダーやグループに望むこと	41
(10) 女性まちづくりリーダーやグループに期待する分野	42
(11) 市区町村への支援	43
(12) 女性を対象とした学習機会の提供にあたっての課題	44
4. 女性の地域おこしやまちづくり活動への参加を促進するための学習支援のあり方	47
4-1. 気づきの場面での教育・学習支援のあり方	48
4-2. 共有の場面での教育・学習支援のあり方	50
4-3. 組織化の場面での教育・学習支援のあり方	51
4-4. リーダー育成のための教育・学習支援のあり方	54
4-5. 先進的な教育・学習支援の取り組み	56
(1) 宇治市の取り組み	56
(2) 山形県の取り組み	64
5. 調査研究成果と課題	70
5-1. 調査研究成果	70
(1) 多様なきっかけづくり	70
(2) 具体の事業実施を通じたスキルの向上	70
(3) 自治体・現場への支援	71
5-2. 課題	72
資料編	75

本編

1. 調査研究の概要

1-1. 調査研究の目的

(1) 調査研究テーマに対する認識

地域社会では、人口減少、少子高齢化の進展、産業構造変化の直撃を受けた地域産業力の低下といった大きな社会変化に加え、地域の担い手不足や近隣間・世帯間の交流の希薄化が進み、従来のコミュニティや地域社会が担ってきた互いに助け合い、安心・安全な暮らしを守り、人を育てるといった機能が失われつつある。

こうした地域の活性化を進めていく上で、女性の役割は非常に大きくなっている。

女性は生活を通じて、その地域の実情・ニーズに詳しく、地域の課題解決に直結した取り組みとなることが多い。

また、女性の参画により新しい視点や発想など、行き詰った地域社会を変える大きな可能性として期待され、地域活性化において女性が参画できるかどうか成功の鍵とまでいえる状況にある。

しかしながら、一方で、男性が”会社”や”地域の寄り合い”等のなかで培ってきた組織づくりや問題解決のための合意形成等の能力に対して、これまで家庭の中で活動することの多かった女性が、個人的に感じている地域社会への問題や解決方策を、地域や行政に提案したり、仲間を募り組織化し、組織のなかで合意形成を図っていくといった活動に至らないケースが多い。

確かに、自治体はまちづくり講座や社会起業家（コミュニティビジネス、NPO等）のためのセミナー等を開催し、まちづくりリーダーの養成等を行っている。しかしながら、女性の視点に立ち、女性特有の実情を踏まえた学習機会となっているかどうか、女性のまちづくりリーダーを育成するための学習支援として、女性が地域づくりに関わっていく中で、さまざまな段階の関心に対応できる学習機会や内容についての検討が必要である。

(2) 本調査研究の目的

こうした現状に鑑み、①女性が自らの地域やまちに対して関心を高め、②どう提案していくのか、また③同じ問題や悩みを抱える仲間と情報を交換し、グループ化を図りながら、④課題解決のための方策について合意形成を図り、⑤地域や行政に提案したり、パートナーシップに基づく行政との協働を進めていくのか、また⑥そうしたグループを形成していくためのリーダーシップをどう培っていくのかといった女性がまちづくりに関わっていくなかで様々な課題に対応して、具体的な学習支援内容を明確にしていくことが重要であると考える。

本調査研究では、こうした視点に立ち、女性が地域活性化やまちづくりの場面で活躍し、地域の活性化を図っていく女性参画を高めるための学習機会、学習支援のあり方を、地域の現場から導き出すことを目指すものである。

なお、本調査研究は、平成 20 年度の文部科学省の委託により行った。

1-2. 調査の概要

(1) 女性まちづくりリーダー・ヒアリング調査

実際に地域で活躍している女性まちづくりリーダーに対して、地域活性化やまちづくりに関わるきっかけ、活動を進めていく上で経験した問題や課題とその解決方策、グループやメンバーに対する関わり方、女性まちづくりリーダーに必要な学習、行政の関わり方などについて聞き取り調査を実施した。

また、ヒアリング調査を行った女性まちづくりリーダーの中から、さまざまな分野で活躍する女性まちづくりリーダーに参加してもらい、女性まちづくりリーダー会議（グループディスカッション）を実施し、さらにそれぞれがこれまで取り組んできた活動を促進するための学習機会や支援の在り方について検討を行った。

①女性まちづくりリーダー・ヒアリング調査

■ヒアリング調査対象者

調査対象者	活動の概要	地域
Aさん	農業を活かした新たな起業による地域産業の活性化	北海道
Bさん	行政と連携したまちづくりの推進	青森県
Cさん	エコ活動による商店街の活性化	東京都
Dさん	まちづくりと人材育成	石川県
Eさん	地域のイベントやまちづくりの企画、実施	岐阜県
Fさん	音楽による地域文化の創造	滋賀県
Gさん	地域の資源を活かした地域特産品開発	鳥取県

■ヒアリング調査時期

平成20年11月14日～12月10日

②女性まちづくりリーダー会議

■参加者

(敬称略)

氏 名	所 属
小木曾光佐子	陶町まちづくり推進協議会
九栗貞子	北海道女性農業者倶楽部会長
荻野美智子	NPO ブラームスホール協会代表
藤村幸子	はちのへ女性まちづくり塾生の会代表

■開催日時

平成 20 年 12 月 18 日 (木) 13:30～16:00

■開催場所

文部科学省 第 1 会議室

(2) 全国市町村・都道府県実態調査

全国の市町村・都道府県に対して、女性を意識した地域おこしやまちづくりへの参画、リーダー養成を目的とした学習機会や支援の実態について、アンケート調査を実施した。調査回答等の状況は以下のとおりである。

また、回答を得られた自治体から、女性まちづくりリーダーや活動が生まれている学習支援等の実態についてヒアリング調査を実施した。

■回答状況

- ・市町村 : 回答自治体数 1,005 (回収率 56.5%)
- ・都道府県 : 回答自治体数 34 (回収率 72.3%)

■ヒアリング調査

- ・神奈川県かながわ女性センター
- ・山形県男女共同参画センター
- ・青森県八戸市
- ・京都府宇治市男女共同参画支援センター
- ・大阪府富田林市

(3) アドバイザーヒアリング調査

女性まちづくりリーダー、行政それぞれの視点から、女性が地域おこしやまちづくりへの参画を促進するための、意識や活動の段階に応じた学習機会の提供や学習支援内容について、検討を行うため、地域おこしやまちづくり活動を専門とする学識経験者等を対象に、調査研究内容についてのヒアリング調査を実施した。

■調査対象者

(敬称略)

分野	氏名	所属
ヒューマンリソースマネジメント	佐野陽子	嘉悦大学名誉学長
地域振興・まちづくり	野口智子	NPOスローライフ・ジャパン、ゆとり研究所代表
地域振興・まちづくり	政所利子	(株)玄代表

2. 調査研究結果

2-1. 女性まちづくりリーダー・ヒアリング調査結果

(1) 女性まちづくりリーダーの活動参加のきっかけ

女性まちづくりリーダーといっても、活動に至ったその背景は様々であり、学習支援や機会を提供する場合にも、対象者は一様ではないことに留意すべきである。

ヒアリング対象者を大まかに類型化すると以下のようなタイプに分けることができる。

- ①結果的に女性の地位向上や女性の社会参加の機会を増やすことを目的として発展していったケース
 - ・「農家の嫁」、「働き手」としてだけで認められる機会がなかったなど
- ②子育てが終了し、時間的な余裕が生じ、女性大学など自分探しプログラムに参加するうちに地域活動へ発展していったケース
 - ・子育てや介護の後、自分自身に戻って何かを見つけたかった、学習をするうちに問題意識に目覚めていったケース
- ③地域での自分の商売や事業の発展を女性の立場で考え発展させていったもの
 - ・農業の生産物だけでなく、加工品を作るなど付加価値をつけていくケース
- ④保護者会やPTAでの活動から、地域の活動に発展したもの
 - ・子どものスポーツ大会や通学路の安全などの活動から、地域おこしや地域の防犯などに発展していったケース
- ⑤趣味を活かして起業し、地域振興や地域の子ども育成に発展したもの
 - ・地元産物を活用した工芸品を使って地域のアピールを行ったり、音楽の仕事を活かして子ども音楽を通じた教育や文化活動を展開していったケース

女性問題解決発展型	自己実現型	事業系発展型	地域課題解決型	趣味発展型
女性の社会参加機会が少ない 嫁ということで個人として尊重されないなど女性の待遇、女性の立場の問題意識から活動に発展	子育て・介護終了後、自分探しの過程を通して地域活動をはじめる。 女性大学に行ったり、自分の生き方を確認する過程で活動に発展。	家業や街の事業発展に協力する段階で発展。 事業性が強い(収益性を考える)	子供の防災、介護など地域の課題解決を考えた結果、活動に発展。 保護者会やPTA、生協活動などの発展版としてよくみられる	女性が男性かに関わらず、自分の趣味や特技を地域の財産と照らしあわせ、マッチングさせて活動に発展。

図 活動のきっかけ (タイプ)

（２）リーダーになっていった経緯

ヒアリング対象者は、いずれの方もいわば第一世代といえ、きっかけは様々であるが、最初から活動を中心的に行っており、活動量やグループ、地域社会に対する影響は徐々に大きくなっているものの、徐々にリーダーとして育成されていったわけではないという特徴がある。

当然ながら、活動を継続する中で様々な困難な問題や経験を踏まえて、リーダーとしての力量を高めていったことは否めないが、活動に対する目標やミッションにおいては、当初からリーダーとして活動や他のグループメンバーを引っ張っていることに留意する必要がある。

本調査研究においては、当初の仮説において、無関心層から地域の課題や自己実現に目覚め、徐々に活動に参加するなかでリーダーに育っていくという図式を描いていたが、これまでの女性まちづくりリーダーについては、その活動のきっかけより、目標やミッションを持って取り組んでいったリーダーであったことがわかる。

ただし、ヒアリング対象となった女性まちづくりリーダーは活動の第一世代であり、これらのリーダーのもと育っていった次世代のリーダーについては、さまざまなステップを得てリーダーとして育っていくことが想像される。

（３）リーダーの資質

いずれの女性まちづくりリーダーについても、グループ内部に対しては、活動全体の和を意識しすすめていく協調を重視しているが、強いビジョンを持っており、そのビジョンに惹かれてメンバーが集まるといった形になっている。また、グループ内部だけでなく、外部とも積極的な交流を図っている人が多く、グループ内部に対しても外部に対してもグループの代表として責任感を持って行動している。

このような女性まちづくりリーダーが持っている資質としては、以下のようなものがある。

①内部にあつては、情熱と志を持った強い意志と活動推進力を持つ

- ・メンバーが役割を担って、活動できるような調整力と客観的視点
- ・意欲を減退させないモチベーション推進力（意義、生きがいや楽しさ）
- ・人徳、フェアな視点

②外部協力者、行政などの支援者との交流やネットワーク

- ・外部との交流、交渉力（人・お金）
- ・外部の情報収集力

(4) まちづくり活動での支援を求める場面

調査対象の女性まちづくりリーダーは、特に、活動の「きっかけ」が最も重要と考えており、リーダー育成については、それぞれが現役として活躍していることもあり、関心はそれほど高くはなかった。しかしながら、活動を継続させるには新たなリーダーづくりが必要と考えている人もおり、今後は、後継者育成という視点を持つことも重要となってくると思われる。

必ずしも次に掲げるような流れで活動が進むということではないが、一般的に地域おこしやまちづくりの活動を進めていく場合、以下のような場面で、支援を必要としている。

①きっかけの場

地域の課題に対する「気づき」があれば、関心あるグループの情報に出会い、参加へと発展していける。

「気づき」以前の段階であっても、身近な関心事・イベントへの参加を機会に「気づき」を得るケースも多い。また漠然として「気づき」を行動・活動へと関連させていく意欲を持つ機会や同じような気づきをもち、互いに刺激しあう仲間との出会いの場も必要であることから、さまざまな機会や場を提供していくことが重要である。

②参加の場

参加の意思があっても、子ども・家族の理解・仕事などハードルがあると参加できにくいことが指摘されている。参加の時間や託児サービスを提供するなど、こうしたハードルを低くする支援もあるが、基本的には家族や男性の理解を高めていくための地道な取り組みが重要である。

③活動継続の場

活動を継続・発展させるためには、メンバーが活動を「楽しい」と感じる事が重要であり、そのためには目的・やりがい等を常に掲げていくことが求められる。

また、女性の場合、結婚や出産、子育て、介護など様々な場面で、活動継続が困難になることが想定されるが、グループとしてそうした人への配慮が求められている。無理に同じように活動を継続しなくても、活動に参加している実感を得られるような心と体の負担を軽くさせるような認識を醸成していくことが重要である。

④リーダー育成の場

リーダーは、さまざまな機会を通じて経験し、失敗することから学ぶことが多いというのはすべての女性まちづくりリーダーの認識である。

したがって、協働の場などを通じて、活動経験の機会を与え、任せていくような学習支援が重要である。

きっかけづくり	参加支援	継続支援	リーダー育成
【積極的参加】 * 行政主導の会・イベントへの参加 * 町内会への参加 * 女性の意識啓発講座への参加 【受動的参加】 * イベントに参加から、「気づき」子どもオペラ、お祭り、 * さまざまな学習機会を設ける（講座・セミナー・勉強会などを主催）食育、パソコン、まちづくり、防災・・・	* イベント・勉強会等の託児サービス * 参加しやすい時間帯・設定にする（昼間・食事会・・・） （育児・嫁の立場・働き手として・・・等のハードルを考慮する）	* 活動を「楽しむ」環境づくり。目標を掲げ、達成したら次の目標を立てる。 * 出産・育児・介護など、女性の「壁」に配慮する。	* 機会を作って、任せる（簡単に結果を求めず、気長に見守る） * 話をする場、話を聞く場への参加を勧める（視野を広げる）

図 活動の場面と必要な支援

（５）女性主体の活動のメリット

グループで活動が続けていくなかで、特に女性のグループだからという問題の指摘は少ない。かえって女性ならではの課題や地位の向上といった場合は、共有化しやすく、女性だけの方がまとまりやすいという認識を持っている。

特に、男性よりも本音を言う女性の話術は、会議を円滑に進めている。また女性は建前を気にしないで、知りたいことやわからないことを、そのままにしないで、行政に対しても、直にどんどん聞きいていくなど、機動力や結果あいまいにしないことでの実行力が発揮できるなどの指摘もある。

一方、女性の場合、客観的でない感情論の話になりやすいとか、「家族に聞かないと・・・」というような消極的な姿勢、責任を取らなければならないような役割を避けるなどの傾向が指摘されている。また外部に対しては、女性のリーダーだということで評価が軽くなったり、また揶揄されたりするようなデメリットを指摘することもある。

ただし、女性まちづくりリーダーとしては、女性だからというような意識は低く、グループメンバーや、リーダーが女性でなければならないという意識は低く、男女共同参画が重要とする意見であった。

	環境	話し方	責任
メリット	* グループ内では、お互いの立場を理解・配慮することができる。 * 外部から、「女性としての」「市民としての」意見を求められる。	* 男性が、わからなくても誰も聞けないことを、「わからない」と聞くことで話し合い（会議）が活性化する。 * 「わからないこと」をわかるまで聞く。	* 何が何でも結果を求めない。失敗してもまた次という柔軟さがある。
デメリット	* 出産すれば休む期間がある。子どもが小さければ、非公式の夜の飲み会には参加しにくい。男性とは違う環境条件がある。	* 感情論で話し、客観的な話し方が苦手な場合がある。	* 「夫に相談しないと」など、自分で決められないことがある。

図 活動を進めるうえでの女性のメリット・デメリット

（６）行政との関わり

行政との関わりは、活動への参加のきっかけと、活動の発展段階での交渉・協働の相手となっている。

①活動への参加のきっかけ

男女共同参画推進のため、行政から委員や会への参加依頼があり、活動へのきっかけとなったとするケースも多い。その場合、もともと行政主導型なので、サポートもあり、コミュニケーションがスムーズとなり、その後の活動にも支援を得られやすい傾向がある。

②活動での交渉

補助金の申請や活動の許認可、身近な問題・疑問点の問い合わせ等で行政と関わることが多い。行政主導ではなく始まった活動は、日頃行政との関わりがない限り行政と付き合うことすら思いつかないこともあり、また行政側からアプローチしてくれない限り付き合うとしてもどの窓口かもわからず、敷居が高いことが指摘されている。

③活動での協働

行政の審議会への参加、まちづくり塾等の運営の受託、地元の観光振興と活動の組み合わせ等、活動の場が行政と関連することが多い。

行政の対応については好意的に捉えていることが多いが、要望・不満もある。

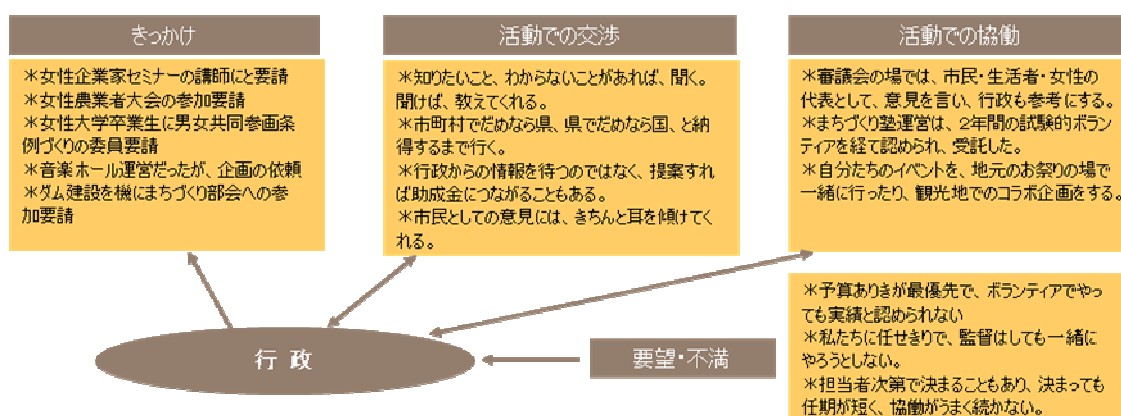


図 行政との関わり

④行政の対応

行政の対応で良い点は、企画の提案や申請書の疑問点など、交渉や問い合わせの場面で、比較的丁寧で親切的な対応をされることが多いと感じている。わからない点は、聞けばわかるまで教えてくれる。また、活動をするグループに、各種事業情報や助成金申請先の情報を提供してくれるなど、活動が認識されるにつれて、情報提供や協力要請の場も多くなっている。ただし、女性まちづくりリーダーからは、行政の姿勢は受け身的であるという指摘は多い。

一方、行政に対する共通する強い不満は、協働といいながら、「一緒にやろう」という態度がない、グループの活動を見に来てても、参加はしないという点である。また、担当者の任期が短く、せっかく仲良くなり、連携が取れてきても担当者が異動すると、その関係も再構築が必要となったり、前任の担当者も担当時は熱意を持って活動を見てくれても、異動すると活動への関心がなくなったと感じられ、グループとしては空しい思いをするケースが多いというような指摘をしている。

また、「予算」を重視する傾向があり、予算のついていない活動は実績にならないといわれたり、予算にしばられて柔軟に活動を変化できないなど、行政と連携することのデメリットや不満を掲げる場合も多い。

(7) ヒアリング結果とりまとめ

■地域産業の活性化に取り組む女性起業家リーダー

活動参加のきっかけ	・ 農家に嫁いで以降、ただ農家の働き手としてみられているようで、次第に自分から外に出ていこうという気持ちもなくなっていった。そんななかで、だめになっていく自分と子どもに不満をぶつけてしまう自分があり、どうしていいか悩んでいた。 ・ ある時、ふとみたドライフラワーに心を惹かれ、リースづくりをはじめた。 ・ リースづくりが農業改良普及センターの人の目にとまり、地域で実施されていた生活研究会への参加を呼び掛けてもらった。 ・ 次第に参加することが楽しくなり、仕事を真剣に取り組んで参加する時間を捻出するようになった。 ・ グループでリースづくりに取り組むようになり、家族の協力も得ながら作品を販売するようになった。自分の作ったものが売れるという喜びが大きく、農業の傍ら自分の事業として取り組むようになっていった。
活動の概要	気づきの背景 ・ 研究会に参加し、仲間づくりをしていくなかで、多くの人が同じような悩みを抱えていることがわかり、悩みや課題を共有することで、心の負担が軽くなっていった。 ・ 自分の作品が売れることが、自分の価値が認められるという実感となり、活動仲間だけでなく家庭においても元気で嬉々としている自分へと変わっていった。 活動の広がり ・ 女性の社会参加を進める行政のグループ形成事業や広域ネットワーク事業などもあり、次第に活動の機会が増えていった。そうしたなかで、平成 19 年に北海道の全域で女性の起業家が集う機会があり、その後、参加メンバーを中心に女性農業者クラブが結成され、会長としてグループを牽引していくこととなった。 ・ 女性農業者クラブでは、加工食品やアイスクリーム、農家レストランなど農業の付加価値を高めていくような取り組みや、フードコーディネーターや栄養士など、食や流通に関わる人も参加し、現在は 45 名程度が参加している。 ・ 安心して自信を持って届けられる食材の提供を目指した活動を展開している。 ・ 単に女性が地域や社会に関わることを目指すのではなく、家庭や家族のあり方などについて、丁寧な関わりを大事にされ、若い女性のよきアドバイザーとして相談やアドバイスを行っている。
困ったこと（解決のための取り組み）	・ 結局は地域活動、起業といっても、自分がどう生きるのかということを読んでいくことである。なかなか活動できない人、参加できない人をどう参加させていくかは、大きな目標を与えてあげること、自分はこうなりたいというような目標を持たせてあげることである。自分の立つ位置をしっかりと持つこと、持たせてあげることが重要である。 ・ 人を育てるものは、結局、人である。人が人を育てる。

学習の機会や活動を通じて学んだこと（必要な学び）	・経営を行っていくためには、経理など基本的なことは学んでいかなければいけない。 ・グループの運営については、とにかくみんなで納得がいくまで話し合うことが重要。こうしたノウハウについては、現場で経験を積んでいくしかない。 ・リーダーは、人のできないことをする人であると思う。グループの活動の中で、みんながやらないことをやることが大切である。上に立つような考えでいると、自然とメンバーと距離感ができてしまう。そして自分の考えを理解させようとする、自分の考えが伝わらないという不満ができ、結局は押しつけてしまう。みんなが自然と活動ができるようじっと待つことも大事である。
活動を促進してくれたこと	・行政が多様な機会を通じて、活動を支援してくれたことが大きい。農業改良普及センターの女性職員が、活動に関する情報の提供や、会議等を進める中で議論が逸脱しないように自然と方向修正してくれたり、新たな目標を掲げてはどうかなどとアドバイスしてくれたりするなど、目立たない形で活動を支えてくれた。 ・自分が生き生きと活動するなかで、子どもが協力してくれたことをはじめ、家族が支えてくれたことが大きい。
課題	・女性の地域参加を進めていくためには、出られる機会、出る機会を増やしていくことが重要である。そのためには家族特に男性の理解が必要である。 ・後継者を育成していくことが課題となっている。次のリーダー候補に対して、自分で考えることをアドバイスしながら、徐々に任せている。現場で育てる、育っていくしかないと考えている。
行政に対する要望	・これまでの農業改良普及センターの関わりには感謝している。しかしながら活動が広がってくるにつれて、行政の様々な部署との関わりが多くなってきた。広域的な活動を行う中で、急な予算消化とってしまうような事業を依頼されることがあり、困ったときがあった。

■行政と連携してまちづくりに取り組む女性リーダー

活動参加のきっかけ	・子育てが終わり、両親も見送った後、学びたいという意欲から、平成 11 年に県の女性大学に通うこととなった。 ・女性大学のメンバーは 20 名であったが、そのうち 6 名が同じ市から参加しており、地元でも交流を深めていこうということになった。 ・また、平成 13 年に市の男女共同参画事業として、女性まちづくり塾が開催されることになり、女性大学に通っていたことから市からの情報提供もあって、女性まちづくり塾に参加することとなった。
活動の概要	気づきのきっかけ ・もともと人との出会いが宝であると考えており、女性大学や女性まちづくり塾のメンバーとの出会いを大切にしたいと考えていた。 ・また、学びも通じて意見を言える人になりたいと考えていた。 ・こうしたなかで、タイミングよく女性大学や女性まちづくり塾に参加できたことがきっかけとなっている。 活動の経緯 ・女性まちづくり塾は、市政に関心を持ってもらうために、行政組織や行政の役割、事業、財政などについて、市の担当者が講師となって年間十数回の研修会を開催するものであった。 ・毎年度、新たな塾生を募集し、開催されていったが、卒業生も聴講生として、研修会に参加するうち、卒業生間の連携が生まれ、女性まちづくり塾生の会を結成することとなり、会長となって塾生の会の活動を進めていくこととなった。 ・女性まちづくり塾に対して、塾生の会がお手伝いをするなか、研修テーマの希望などを聞かれるようになり、自然と企画にも関わるようになった。また、平成 15 年からはファシリテーターや議事録作成なども手伝うようになり、平成 16 年から企画・運営を委託されるようになった。 ・受講生の立場から、外に出て現場を視察したり、ワークショップを行ったりして、テーマも行政だけでなく、地域の歴史や文化、環境、福祉など多様になっていった。 ・塾生の会独自に、中心市街地活性化などもテーマとして勉強会を開催し、提案などを行っているなかで、活動が評価され、商工会議所とも連携が生まれた。 ・平成 19 年には国の事業も受け、地域のマップづくりや特産品開発にも取り組んでいる。 ・平成 20 年からは、中心市街地にあるまちの駅の管理運営を受託するようになり、女性の起業家支援のチャレンジボックスの管理も行うなど活動資金の確保もできるようになっていった。
活動の概要	活動のねらい ・女性まちづくり塾生の会では、感情でものを言うのはやめよう、学習に基づいて意見を言おうということを目指し、審議会などにも積極的に応募し、参加している。 ・女性の社会参加を進めるためには、きちんとした意見を言えることが重要であり、そうした人になろうということを目指している。

	・塾生の会は、活動する女性をお互いに支えあう、応援しあうことを目的としており、それぞれがテーマを持って活動している。 ・自身の研さんの場、自分の力をつけるための努力はいとわない、チャンスは逃さないというメンバーの集まりとなっており、メンバーは塾の卒業生に限っているが、新しいメンバーとも一緒に行動するよう心掛けている。
困ったこと（解決のための取り組み）	・塾生の会が企画する勉強会には、なかには興味本位で参加し、二度と来なくなる人もいるが、基本的には自分たちの研さんの場と考えており、その他のメンバーをむやみに集めようとは考えていない。 ・女性が社会参加をするためには、やはり家族の理解が必要である。協力を得るためには、自らが輝くことが大事だと考えている。活動の不満を家庭に持ち帰ると、「いやならやめれば」と言われてしまう。 ・会の中でも、勉強会でも疑問点があれば、とことん話し合うようにしている。それでも解決しない時には、市や県、関連団体などへ行って相談している。中途半端にしないことが重要である。 ・若い女性の参加を得るためには、無理強いしないことが大事である。その“時期が来れば”というぐらいの感じでよい。家庭のプレッシャーを感じさせないようにしている。また、具体的には託児サービスを行うなど、若い女性が参加しやすい取り組みを行っている。
学習の機会や活動を通じて学んだこと（必要な学び）	・会で目指したように、勉強してきちんと意見を言えるようにすることで、行政や商工会議所などの評価を得ることができたと考えている。行政や商工会議所でも女性の活躍を求めており、きちんと意見を言えるようにしていけば、活躍の場は与えられると考える。 ・活動資金確保方法などについては、勉強しておく必要がある。 ・意見をまとめる力をつけることが必要である。そのため県のファシリテーター研修会などにも参加している。
活動を促進してくれたこと	・活動を通じて得られた人脈が財産となっている。女性まちづくり塾や、塾生の会が企画する勉強会の講師などについても、すべて人脈を通じて依頼している。これまではどの講師も快く受託してくれており、かえって市が公式に依頼するよりもうまくいっているという評価もある。
課題	・平成 20 年度より、女性まちづくり塾の企画運営について、公募型の事業となり、平成 20 年度は別のグループが企画運営することとなった。今後もこうしたスタイルの事業実施となるものが増えることから、事業を確保していくための実績やノウハウの蓄積が課題である。 ・会の法人化の問題を検討している。
行政に対する要望	・協働の機会が増えているが、行政と住民のパートナーシップではなく、行政の目的に沿って、住民だけが活動するというような理解となっている担当者がいる。行政も同じところで住民と一緒に活動を行ってほしい。 ・助成金等については、あとから入ってくる。それまでにも活動は行っているの、その間の負担を支援してほしい。

■商店街の活性化に取り組む女性リーダー

活動参加のきっかけ	・活動前は、商店のおかみさんとして家業に専念しており、外に出ることはほとんどなく、外で活動することなど頭にもなく、あきらめていた。 ・市の商店街振興組合連合会でおかみさんの勉強会を開催することになり、商売のことならと夫から勉強会に出ることを勧められ、おかみさんの集まりに参加した。 ・勉強会には10名程度が参加し、そのメンバーで「おかみさん会」を結成することとなり、おかみさん会の会長として推薦され、活動を行うこととなった。
活動の概要	気づきの背景 ・「おかみさん」は、商店でものを売る立場と、問屋やメーカーに対してはものに対する要望や消費者のニーズを伝える立場、さらに家庭を支える主婦、消費者の3つの立場を持っている。 ・この3つの立場から、現場がわかる人として、コミュニケーションを行い、地域への情報発信や目に見える取り組みを行うことができるのではないかと考えた。
	個人の取り組み ・安心・安全の商品を提供したいと考え、有機肥料を使いながら無農薬のお茶を生産する農家と提携し、安心・安全のお茶を販売しているなかで、お茶もやがてゴミになってしまうと気づいた。 ・お茶ガラを乾燥させ、肥料などとするすることで、ゴミにしない取り組みができるのではないかと考え、お茶ガラの回収を始めた。 ・環境問題は、それぞれがゴミを出さない取り組みとともに、商店はお客さんがゴミをより少なくできるようにすることが大事であると思う。
	地域活動 ・環境問題に取り組む商店街として、1店1エコ運動として、それぞれのお店が商売を通じて、なんらかのエコ活動をお客さんとともに展開していく運動を展開している。 ・リーダーのお店では、お茶ガラの回収や茶筒を持参したお客さんに商店街のポイントを倍増するサービスを実施、総菜屋では容器持参を勧めたり、米屋ではお客さんに米袋の再利用や、布団屋ではコーヒーや紅茶が冷めにくい綿入りのポットカバーを商品化するなど、ユニークな取り組みを実施するようになり、現在、市内の7つの商店会で1店1エコ運動に取り組んでいる。 ・商工会議所等のイベントでもエコフェスタやグリーンコンシューマラーリーなど、エコイベントを実施し、商業者と消費者が一体となった環境問題への取り組みを推進したり、地域の学校と連携し、エコポスター展として小中学生の絵を通学路である商店街に展示したりするなどの活動を展開している。 ・繰り返しエコを訴えていくなかで、ようやく各商店や消費者の理解が深まってきたと感じている。

困ったこと（解決のための取り組み）	・まずは地域活動の経験もなく、どうしていいかわからなかった。いきなり会長となったが、「おかみさん会のすべての会員が会長だよ」と話しながら、みんなで何をしていけばいいかを話し合った。 ・集まったおかみさんのほとんどが、お遊びのような集まりには参加したくないと考えており、実効性のある活動に理解を示してくれたことが大きかった。 ・大手スーパーが開催する環境学習会や商業コンサルタントの勉強会に参加したり、全国の1店逸品運動などを勉強したりするなどの学習を通じて、自分たちの商店街でできることを考えた。
学習の機会や活動を通じて学んだこと（必要な学び）	・補助事業や助成事業を実施した場合の報告書の書き方 ・ホームページの運営・管理 ・情報発信（ホームページ、情報誌など） ・顧客やイベント参加者などの情報管理（メールアドレス等の入手・管理）
活動を促進してくれたこと	・環境問題に取り組む商店街として、活動が行政に評価され「エコ・コンシューマー奨励賞」を受賞したり、TV、新聞などの取材を受けたりしたことで、自信がついた。 ・家族の理解とともに、特に夫が活動を支援してくれた。夫のネットワークを利用して、他地域で活動に取り組む人と交流ができた、情報誌の発行に際して、その編集・校正を行ってくれたりするなど、活動を陰で支えてくれた。
課題	・活動に参加する商店が減少している。集まりに参加する時間が取れないおかみさんが多いことや、自店に直接的なメリットがないと理解してもらえないお店が多く、会に参加を認めてくれない夫も多い。 ・活動を継続、活発化していくためには、世代交代が必要で40歳代のおかみさんに中心になって活動を進めてほしいと考えているが景気動向もあり、各商店の経営が厳しい状況が続いている。 ・お店が厳しくなると、おとしよりにお店を任せて、おかみさんがパートで働きに出るようになる。グループのメンバーが減るというだけでなく、商売の現場がわからない人が増えてくると、おかみさんこそその活動ができなくなる。 ・環境への取り組みが一般化してくるなかで、新しい何かを付け加えていく必要がある。やはり商売繁盛に繋がる何かがないと、継続していかない。環境に配慮した商品の購入に使える商品券なども考えているが具体化が難しい。
行政に対する要望	・研修会や視察会の支援は受けやすいが、具体的な活動に対する支援を望む。 ・勉強は大事であるが、具体の活動を通じて学んでいくことが多い。

■まちづくりや人材育成に取り組む女性リーダー

活動参加のきっかけ	・父親が青年会議所のリーダーとして、地域のまちづくりに積極的に関わっていた。 ・自身も都市計画コンサルタント会社に勤めており、専門家としてまちづくりに関わっていた。そんな中、出身地域である地元の都市計画に関わるようになり、地元の住民とともに活動が続けるうちに、退職し、父が設立したまちづくり会社（TMO：Town Management Organization の略、中心市街地活性化法で定められた中心市街地で市街地の整備と商業等の活性化を行う認定構想推進事業者のこと）を実質的に運営するようになった。
活動の概要	・道路整備と、その道路と並行して流れる河川の整備によって、まちのシンボルロードを作るという事業を、都市計画コンサルタントとして実施し、次年度以降はまちづくり会社として、地域住民と一体となって事業を推進した。 ・川を活かしたまちづくりを進め、河川浄化の取り組みやシンポジウム、イベントなどを開催し、地域の活性化に貢献している。 ・活動の経験をもとに、市の生涯学習課と連携したまちづくり入門講座や仕事塾などの講師を務めたり、コミュニティビジネスや起業家支援を行っている。 ・最近では、地域の生活に目指した商品のネットショップ運営を行ったり、地域の商品開発を進め、着地型の観光プログラムや人材育成を行っている。
まちづくりと女性の参加	・まちづくりの参加の基本は、男女年齢満遍なく集めることであり、意見を持っている人を呼び込むことであり、そのためには声かけの効果が大きい。そうした意味で女性ならではのネットワークは貴重である。 ・大事なことは集まったあとに、どう意見を集約していくかである。 ・参加のきっかけというより参加した時に、自分の意見が通る、聞いてもらえるという実感を持ってもらえるかどうかが大変である。 ・まちづくりに参加するうえで、女性は得なことが多いのではないかな。損なことというのはあまりない。女性は仲良くなるのも上手である。また、多少のことは愛嬌で許してもらうことも必要である。 ・女性は思いつきで話をする人が多いが、それは交通整理をする人がいればよい。形式ばった会議にすると意見がでないの、いろいろな話の中から“これは”というものを見出していくことが必要である。こうした人がいることが重要である。 ・女性は現場から、目の前の問題から考えることができる。コミュニティビジネスなどについても女性の方が得意なのではないか。

学習の機会や活動を通じて学んだこと（必要な学び）	・まちづくりでは一律の学習というよりも、自らの興味や関心を強く持って、自らが学んでいくことが大事である。 ・理念や概念よりも、感動体験が大事である。こうした場をセットすることは難しい。 ・ファシリテーター能力を高めるためには訓練が必要である。これらは各種の研修会があるので、そうしたものに参加するとよい。ただし、事業の経験をしたうえで、参加した方が役に立つ。 ・事業を進めていくうえでは、財務や経理のスキルも必要である。こうしたものも一定の研修など学習機会があるとよいが、学習の機会への参加費用や場所がどこになるかという問題がある。
行政に対する要望	・生涯学習の講座の参加者をみると、課題や問題意識を持っている人が集まっており、行動に移している人が多い。そうした人には適宜、相談できる場所があればよい。 ・行政が事務局をやると、意見を言う側と答える側に役割が分かれてしまい協働とならないことが多い。 ・まちづくりの場面での行政の役割は重要であるが、本来は行政と住民の間に入ってコーディネートする人が必要である。こうした役割の人を協働コーディネイターと呼んでいるが、地域においてこうした役割をするのも、行政職員であることが多い。行政の立場を越えて、地域の実情もよく知っている行政職員が協働の場面でもっと活躍することが必要である。

■地域のまちづくりに取り組む女性リーダー

活動参加のきっかけ	・地域行事として2月に地域内外の子どもが参加する町内マラソン大会があり、その手伝いを地域のまちづくり推進協議会から要請されたのが、まちづくりと関わるきっかけとなった。 ・地域外から参加する子どもは、寒いなか休憩待機場所がなく、なんとか暖がとれることはないかと考えているなかで、ぜんざいを振舞うことになった。最初は、調理を男性が行っており、女性に調理を頼むことも遠慮がちであったが、女性の側から「せっかく女性も関わっているのだから、調理もやるよ」と申し出ていくなかで、その他の女性も徐々に活動に参加するようになった。 ・当時、女性の地域参加組織としては婦人会があったが、他所から嫁いできた若い人の参加が次第になくなり、PTAも子どもの卒業と同時に参加しなくなるというような状況であった。地域では新しいまちづくりの組織としてまちづくり推進協議会が組織化されたが、男性中心の会議であったので、はじめて女性がまちづくり推進協議会と関わっていくなかで、男性の役員等の間でも男性だけの企画でなく、女性も関わるべきだとの声が広がっていった。
活動の概要	気づきの背景 ・もとより女性どうしの仲間づくりに積極的に取り組んでいたもので、新しく地域づくりやまちづくりに取り組むことが楽しかった。 ・女性は結婚を機に地域外からやってきた人が多い。そうした人たちは集まる場や同年齢の集まりがない。一方で、地域のいいものを外からの視点でみることができるのもこうした女性であった。 ・男性はわからないこと、知らないことを素直に尋ねることができないが、女性は知らない、わからないから教えてと素直に言える、会議にもそうしたスタイルで参加することで、かえって男性からも評価された（本当は知らなかったので聞いてもらえて助かったなど） 活動 ・まちづくり推進協議会では、本部と企画広報、文化教養、環境、地場産業を活かした活性化方策の検討を行う部会で構成され、現在、女性リーダーは企画広報部会長として活躍している。 ・地域の伝統的な文化資源や、名所・旧跡を活用した地域コミュニティ再生のイベントや、災害時などの対応を地域一体となって行う取り組みを実施している。 女性ならではの活動・メリット ・まちづくりでは、役所との付き合いも多いが、役所言葉など一般の人の知らない言葉が多い。 ・女性のネットワーク。この仕事ならこの人に頼むとよいというネットワークを持っている。
困ったこと（解決のための取り組み）	・女性は、外の会議に対して、苦手意識を持っている人が多い。役員をいやがる人も多いが、意外と小学校のPTA役員をやった場合には、一生懸命やっている人も多い。自分なりに工夫している人も多い。うまくきっかけを与えていくことが重要である。PTAから次の活動にスムーズにいく仕組みがあるとよい。

学習の機会や活動を通じて学んだこと（必要な学び）	・現場で学ぶことが重要である。 ・スタッフとして参加することで、裏方の苦労や成功の実感が違う。こうした経験をすることでまちづくりの楽しさがわかると思う。参加のきっかけとなる。 ・市で連合まちづくりの会議を3～4回／年開催しており、他地域の取り組みを勉強している。 ・市長と語る会や、各種の審議会等に積極的に参加し、とにかくわからないことは聞くというスタイルで学んでいる。
活動を促進してくれたこと	・夢を実現する、地域をよくしていくという実感、現実感、うれしいという実感を持てることが大事である。 ・家族の理解が必要。日頃から「お願い」と「感謝」のことは自然と出していけば、家族は理解してくれる。なんでも家族で話し合うことが重要である。
課題	・まちづくり推進協議会の役員の2割強は女性となってきたが、30歳代は子育て中であり、参加は40歳代からの人が多い。協議会が結成されて25年たち、当初の参加者も年齢があがってきた。次の世代の参加が課題となっている。ただし役員にならなくても、さまざまな活動に協力してくれる人は多い。こうした形での参加も積極的に受け入れていく必要がある。 ・まちづくり推進協議会の役員だけが一生懸命やっているという雰囲気はある。会員は町民全員となっている。役員は好きでやっていると思われることはよくない。 ・防災をテーマとした活動に取り組んでいる。地域の高齢化が顕著であり、緊急な課題となっている。昼、夜、誰が誰をというきめ細かい体制づくりを検討している。ケアや声掛けの必要性を踏まえても女性への期待・役割は大きい。女性への呼びかけを行っている。
行政に対する要望	・市から夢づくり交付金という形で協議会活動への支援が受けられることになっているが、地域人口等によって交付額が決まるため、人口の少ない地域では交付額が少なくなっている。地域は高齢化・人口減少が著しいため、交付額が少ない。 ・研修会というような大掛かりなものは参加しにくい。学校役員から自然とまちづくり役員へというような仕組みができるとよい。そうした学習の機会、持ち方ができないか。 ・県が開催した地域活性化のシンポジウムのパネリストとして参加した際に、他市のまちづくりのメンバーと交流を深めることができた。こうした場を提供してほしい。

■音楽を通じた地域文化の創造、教育に取り組む女性リーダー

活動参加のきっかけ	・もともと音楽大学を卒業し、プロの音楽家として活動していたが、結婚後は特に活動を行っていなかった。 ・嫁ぎ先が自営業を営んでいたが、義父より音楽を活かして何かをやってはどうかと提案があり、事業所敷地内に音楽ホールを建設することになった。 ・音楽ホールは、音大に学ぶ人や若い音楽家の支援をしたいという思いから建設したものであったが、建設にあたり、幸運なことに音響機器・建材メーカー等の協力が得られ、本格的な音楽ホールを作ることができた。
活動の概要	気づきのきっかけ ・自らが音楽を通して活動を行った経験があり、若手が利用でき発表のできる場や機会の必要性を実感していた。 ・音楽の素晴らしさを伝えていくためには、子どものときから音楽に出会い、体験する場が必要であると考えていた。
	活動事例 ・3年前よりオペラ学校を開催している。これは小学1年生から高校2年生まで約30名（公募）を対象に、夏休みの約1ヶ月間をかけて本格的なオペラに挑戦しようというものである。 ・決して、子どものオペラということで妥協することなく、本格的な練習を行っている。本物であることが条件であり、音楽の本物の力を体験して欲しいと考えている。 ・その他、さまざまな音楽体験のイベントを実施している。
	活動を通じて ・オペラ学校では、1ヶ月間の子どもの練習に併せて、お母さんの関わりを求めている。それぞれが自発的に関わられるような場を設けている。この場では、自分たちの責任で、自分たちで考えて取り組むように進めているが、結果的に活動が楽しく、次第に活発になっていくのは、自分たちで考えて結果を出していけることではないかと考えている。女性の社会参加を進めていくためには、こうした視点が重要であると考えている。 ・あいさつのできない子どもや練習中泣いていられない子どもが多いが、参加するうちに子どもが変わっていく。声を出して生き活きてくる。そうした変化を通じて、親が変わっていく。目的と手段が大事である。引っ張る側が、何を指すのかをはっきりさせないといけない。オペラ学校は手段であり、参加してもらうことは目的ではない。女性の社会参加も参加することが目的なのか。参加することで終わりなのか、目的が何なのかをはっきりしなければいけない。

困ったこと（解決のための取り組み）	・音楽を通じて地域づくりを行っているが、文化は清潔なもの、お金儲けとは違うものと考えている人が多い。実際に活動を進めるためにはお金もかかり、お金をかける以上は責任も重い。しかしながら、特に女性のなかには、文化ボランティアの感覚が強く、参加する人も責任のない部分で関わろうとする傾向がある。 ・活動が評価されるためには、責任を持ってやり遂げる必要がある。中途半端に終わると、かえって女性の社会参加はだめだみたいな評価を受けてしまう。グループの運営や活動にあたり、メンバーにも責任感を持って取り組んでもらうよう意識づけを行っている。
学習の機会や活動を通じて学んだこと（必要な学び）	・文化のまちづくりとしては、黎明期に活動を行っており、誰かが教えてくれるというようなことはなかった。今から思えば最先端であったと思っている。そうした経験からすると、座学的なものより現場が必要である。 ・組織運営や、会議運営のなかで、組織マネジメントのノウハウやファシリテートの必要性を実感しており、学ぶべきことも多い。
女性の社会参加を進めるために	・現在 40 歳代以下の女性は、なんらかの社会経験もあり、それなりの経験を持っている。社会参加を進めるためには、門戸を広げて、地域や社会のなかで役に立っているという意識づけがあれば、参加してくるのではないかと。これが第 1 ステップである。 ・次のステップとしては、活動にどう責任を取らせるのか、結果を出していくことを目指すような意識づけが必要である。 ・またリーダーの側は、参加する人の姿勢や条件も異なっており、役割も違うことを認識したうえで、それぞれの人が出てきやすい価値基準を持つことが重要である。また、女性が社会参加していくためにはそれなりの責任やリスクがあることを理解させながら、活動のマネジメント、コーディネートをしていく必要がある。
課題	・活動継続のためには、資金確保が不可欠であるが、NPO に対する補助金は事業費のみのことが多く、人件費を確保できない。
行政に対する要望	・市町村や県では情報が少なく、結局、国から直接情報を得ることが多い。こちらから問い合わせれば、親切に答えてくれるが、そうするとどうしても国のピンポイント的な情報入手となり、広く情報を得ることが難しくなる。活用できる事業でもセクションが異なることから、知らないままになっているものがあるのではないかと。 ・行政との協働の場が多くなっているが、行政は監督者だと思っている担当者が多い。一緒に活動しようとはしなかったり、予算に基づかないボランティア的な事業は評価しない（実績としない）などの対応をされることがある。

■地場産品の開発に取り組む女性リーダー

活動参加のきっかけ	・個人的な趣味でリース作りを始めたところ、地域にはお土産になるようなものがなく、何か地域独自のものが作れないかということになり、地域に豊富にある山野草を使ってリースを作ってはどうかという話になり、仲の良い3名でリース作りを始めた。 ・当時、行政の方から地域で独自に行うまちづくり事業への支援があり、空家（オーナーが遠隔地に居住）を活かして、平成15年に地域の交流拠点となる工房を開いた。
活動の概要	気づきのきっかけ ・趣味のリース作りを活かして、人にも教えたいと思い、通信教育で勉強をしていた。仲の良いグループで取り組むうち、お祝いや地域から出ていった人が帰省した際の、プレゼントにしたいと思うようになり、それがやがて、地域の特産品開発へとつながっていった。 ・全国生涯学習フェスタや林業祭などに参加するなかで、より活動が広がっていった。
	活動の広がり ・お土産としてリースを作るだけでなく、リース作り体験を通して都市農村交流のきっかけとしたいと考え、交流拠点となる工房を開設した。 ・行政を通じて大学などとの交流が広がり、地元大学の教育学部が子どもたちを連れて、リース作り体験を行うなどのイベントも開催した。 ・地域では、まちづくり協議会が結成され、活動を進めていく中で、各種のイベントへの参加が求められるなど、地域資源として地域の山野草を使った製品の提供として、またリース作り体験を通じた交流の場の運営として活躍するようになった。 ・工房は地域の交流拠点ともなっており、関心を持つメンバーが集まり情報交換をするなかで、新たに陶芸のグループや手作りこんにゃくのグループが誕生した。 ・手作りこんにゃくグループは、女性リーダーが参加する地域活性化ビジョンのなかで、地域を「食いしん坊サロン」として活性化していきたいという意向に沿うもので、現在5名が参加しており、会員どうしの繋がりを大事にしながら、安心・安全の手作りにこだわり、活動を進めている。
	活動の特徴（女性リーダーやグループの考え） ・活動については成果を焦ることなく、じっくりとやっていきたいという思いから、できることを無理なく行うことを目指している。性急に広がっていきたくないというのが実感である。 ・あまり責任や役割分担を考えず、好きなことをボランティアの気持で、思いのある人がリーダーとなって活動を続けていけばよいと考えている。

困ったこと（解決のための取り組み）	・リースの販売実績やリース作り体験参加者数があまり増えていない。もともとリピーターとなりにくい素材（リースは数年たっても変化しないことで消費財のように買い替えしないこと、一度リース作りを体験すると自分で工夫して作品作りを行うようになり、再度、体験したいというようにならないなど） ・地域の人も一度は購入したり、工房に寄ってくれるが、実際にお金がかかることとなると、継続的に購入したり、利用する人は少ない。 ・工房は十数年空家になっていた建物を改修して利用しているが、利用開始から数年が経過し、傷みも目立つようになってきた。今後、改修し、利用し続けるか、他の場所に移転するかが課題となっている。工房については、まちづくりの拠点となっている元小学校内にスペースがあるため、その利用も検討している。
学習の機会や活動を通じて学んだこと（必要な学び）	・リース作りを教えるための勉強は行ったが、それ以外については、活動に取り組む中で、学んでいったことが多い。 ・あえて学ぶという場よりも、好きな仲間が集まって、活動を進めているという状況である。 ・行政との連携により、事業の申請や各種手続き、情報の入手なども行政担当者から適宜得ており、経験を通じてできるようになったこと、学んだこともあるが、これが必要というように改めて言えるものはないというのが実感である。
活動を促進してくれたこと	・行政との関わりが大きく、まちづくり協議会活動と併せて活動ができたことが大きい。また、ビジョンづくりなどを通じて、外部の専門家（大学・学識経験者やコンサルタントなど）との交流が生まれ、さまざまな機会を通じてアドバイスを受けることができたことも大きい。
課題	・工房の活動については、新たな展開が必要である。都市農村交流となるような団体やグループへの情報発信を進め、リース作り体験を行う機会を増やしたり、新たな体験メニューを作るなどが必要となっている。 ・活動は思いを同じくする人が集まればよいと考えているが、こんにゃく作りなどは農業者との関係もあり、経済的利益に重きを置く人も多く、手作りというようなこだわりを持つ人だけで行うことが難しくなっている。
行政に対する要望	・活動の拠点・場となっている工房の拡充（元小学校の利用、改修費の助成など）と、都市農村交流を図るための情報発信の支援を望んでいる。

3. 市区町村・都道府県の取り組み

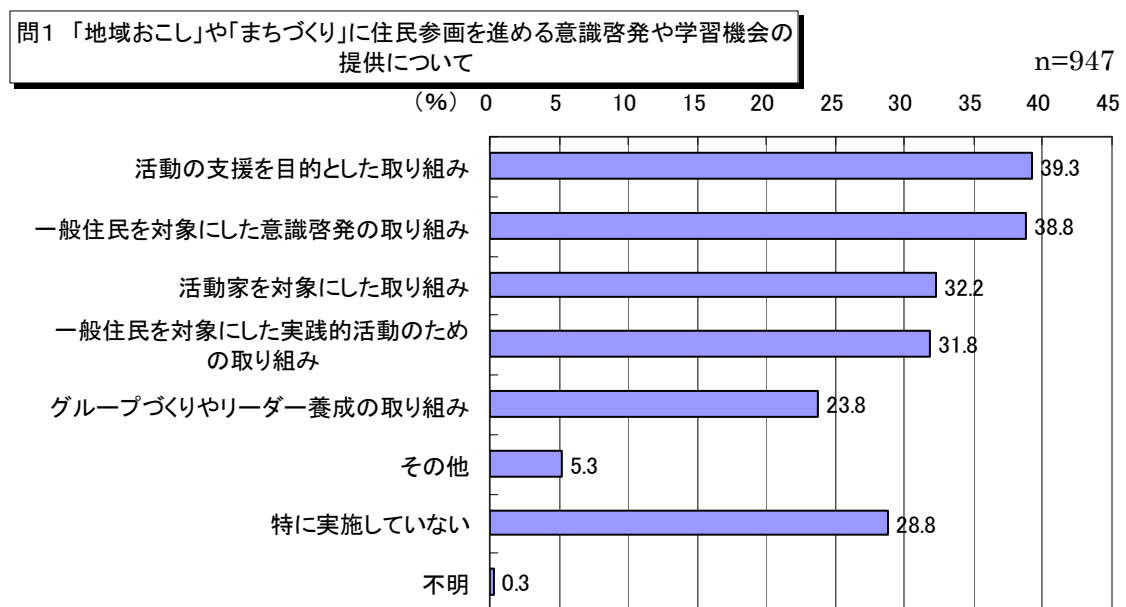
3-1. 市区町村の取り組み

(1) 地域おこしやまちづくりの学習機会

4割の自治体が、一般住民を対象にした意識啓発を目的とするセミナーや、既に活動を行っている人・グループに対する助成等の支援を行っている。

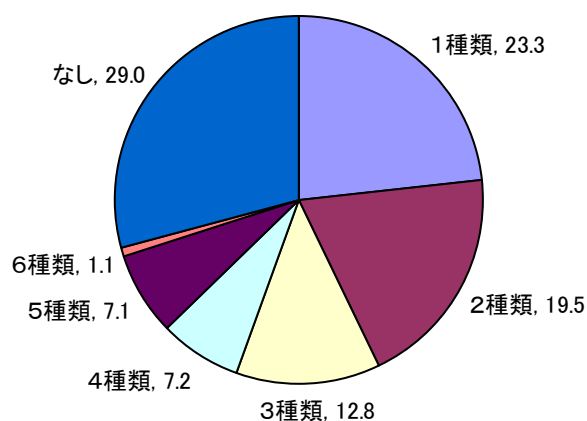
一方で、3割弱の自治体では、何も実施していないと回答している。

取り組み事業が複数以上実施している自治体は、約半数となっているが、1つのタイプの事業しか実施していない自治体も2割を超えている。



問1 「地域おこし」や「まちづくり」に住民参画を進める意識啓発や学習機会の提供について (事業の種類)

n=947

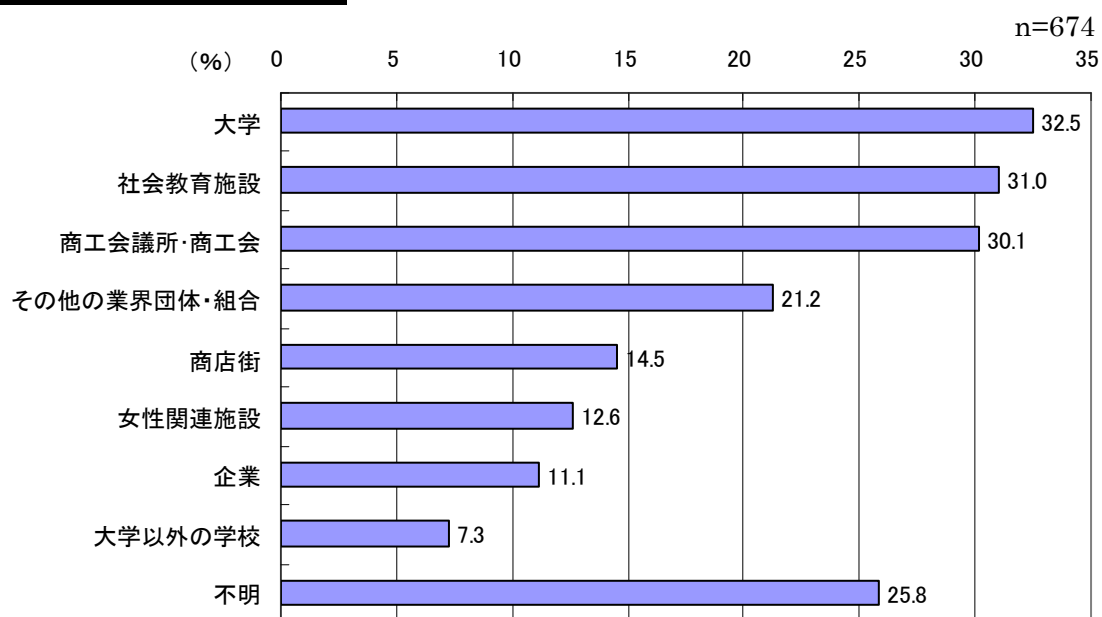


（２）連携・協働する団体

連携・協働する団体としてもっとも多いのは、大学で 32.5% となっている。次いで社会教育施設が 31.0%、商工会議所・商工会が 30.1% となっている。

女性関連施設は 12.6% に留まっており、地域おこしやまちづくりの分野での連携は比較的少ない。

問2 連携・協働する団体について

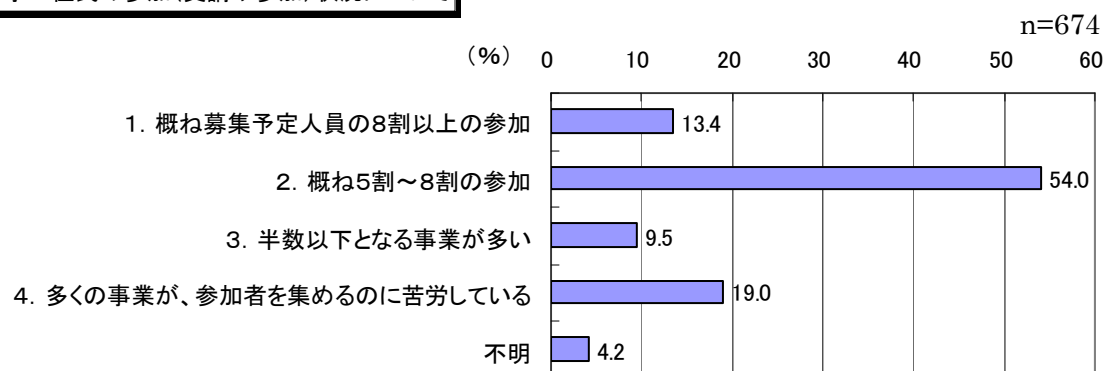


（３）参加状況

半数の自治体がおおむね 5 ～ 8 割の参加と回答している。

一方で、広報の仕方や、住民のニーズの把握方法などに悩んでいる自治体も多い。

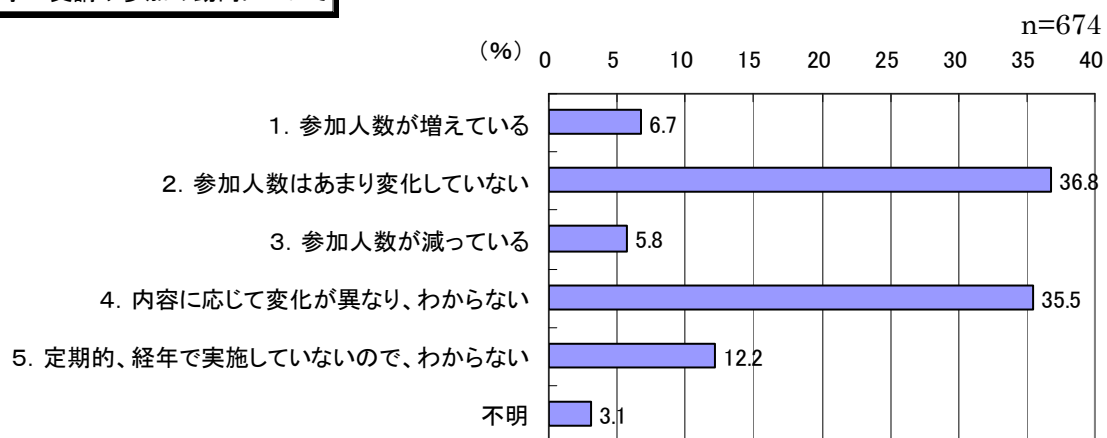
問3 住民の参加(受講や参加)状況について



(4) 受講や参加の動向

参加人数が増えていると感じている自治体は 6.7%に留まっており、変化していないもしくは内容により異なりわからないとする自治体がそれぞれ 4 割弱を占めている。ただし、減っていると感じている自治体も 5.8%と少ない。

問4 受講や参加の動向について

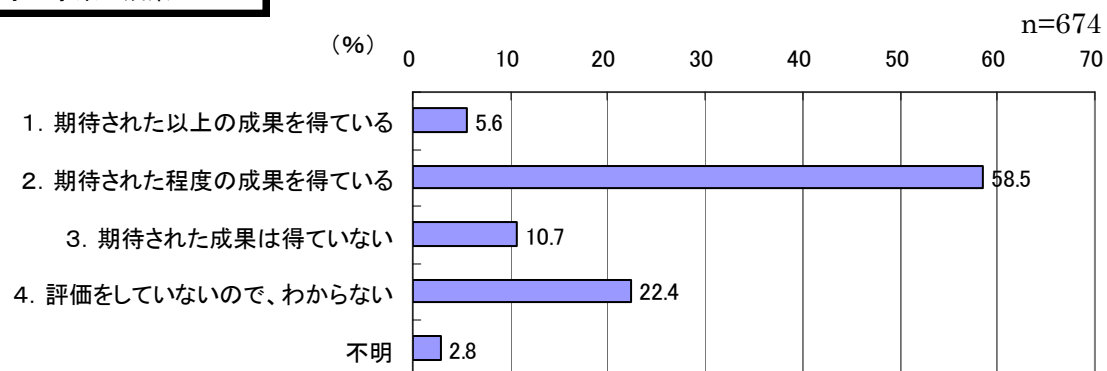


(5) 事業の成果

事業の成果については、期待した成果を得られているとする自治体が約 6 割を占めており、概ね良好な成果を実感している。

期待した成果を得られていないとする自治体が約 1 割を占め、また成果が得られたかどうかの評価を行っていない自治体も 2 割を超えている。

問5 事業の成果について

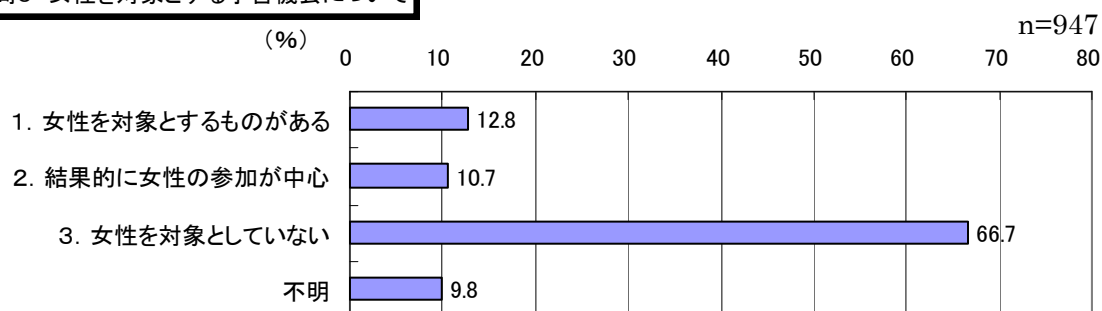


(6) 女性を対象とする学習機会

地域おこしやまちづくりをテーマとして、女性を対象（限定）とする学習機会を提供している自治体は1割、また結果的に女性の参加が多い学習機会がある自治体も1割程度となっており、こうした分野では特に男女にこだわらない学習機会が多いことを示している。

しかしながら、女性を対象に限定しない学習機会では、女性の参加が少なくなる傾向にあるなどの回答もある。

問6 女性を対象とする学習機会について



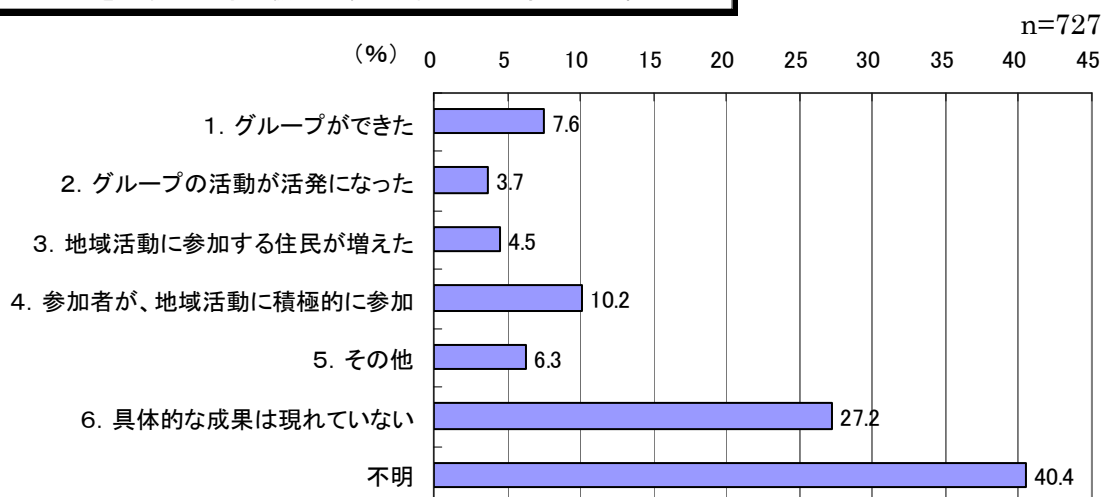
(7) 女性を対象とした学習機会の提供に対する成果

成果が不明とする自治体が4割、具体的な成果が得られていないとする自治体が3割弱となっている。

一方、具体的な成果として参加者が地域活動に積極的に参加しているとする自治体が1割、新たなグループができたが7.6%となっている。

学習の成果が単年度では現れにくいことや、参加者個人の活動状況が見えにくいなど、成果が把握しにくい状況がある。

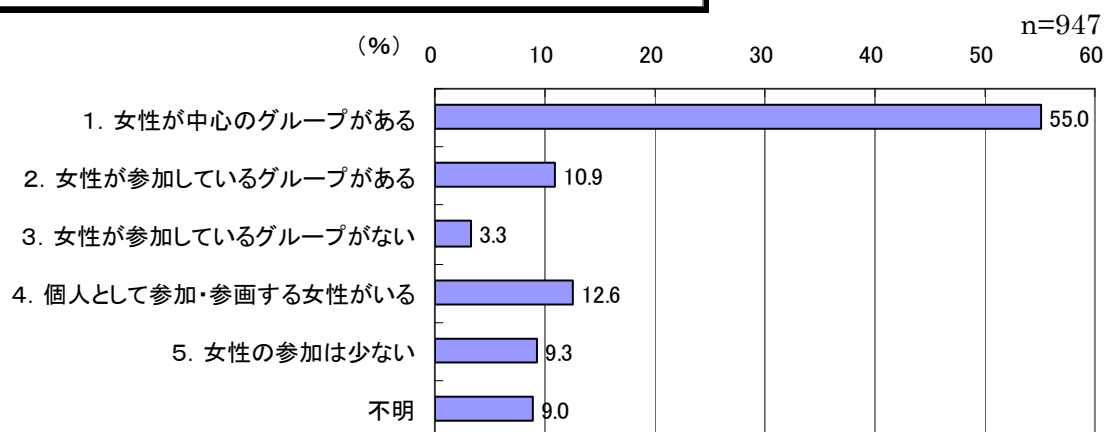
問9 女性を対象とした学習機会や場の提供といった事業の成果について



（８）地域おこしやまちづくりにおける女性の参加状況

半数を超える自治体が、女性が中心となって活動するグループがあると回答している。

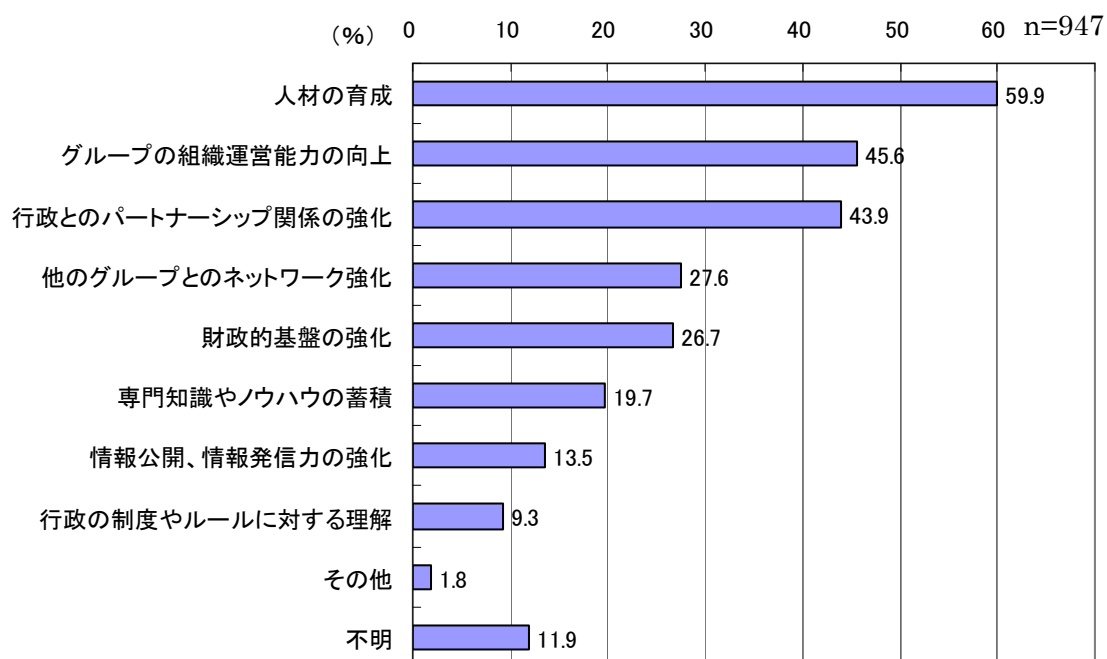
問10 地域おこしやまちづくりの活動における女性の参加状況について



（９）女性まちづくりリーダーやグループについて望むこと

女性まちづくりリーダーやグループに望むこととしては、人材の育成が最も多く 6 割の自治体が回答している。次いでグループの組織運営能力が 45.6%、となっている。また行政とのパートナーシップ関係の強化を望む自治体も 4 割を超えている。

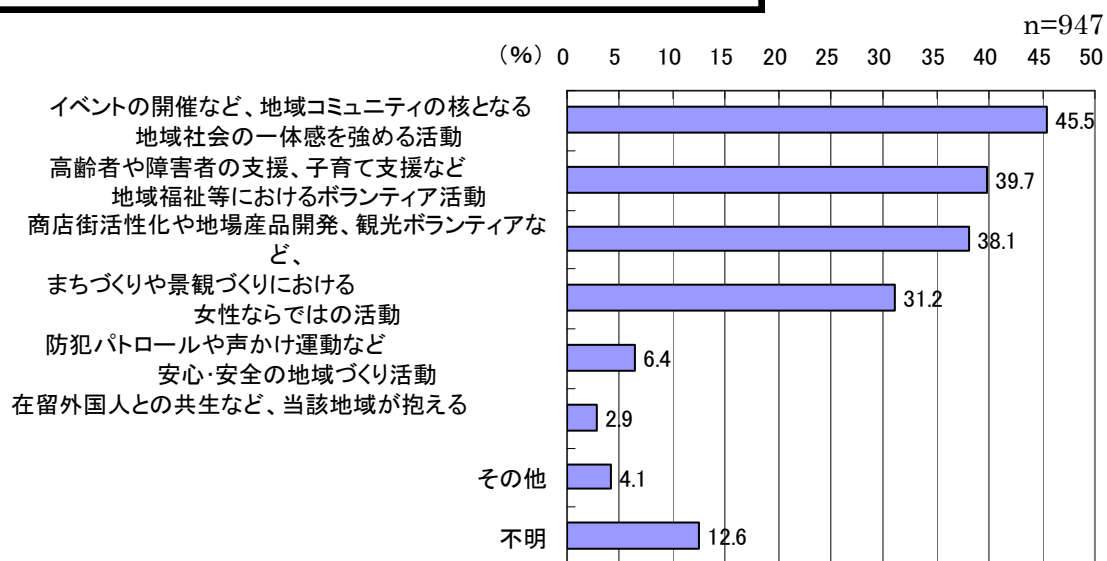
問13 女性まちづくりリーダーやグループについて、今後さらに望むこと



(10) 女性のまちづくりリーダーやグループに期待する活動

45%の自治体が地域コミュニティの核となって、地域の一体感を強めるような活動を行ってほしいと考えている。また、高齢者や子育て支援などの地域福祉に担い手としての期待も高い。

問14 女性まちづくりリーダーやグループに、さらに活躍を望む分野について



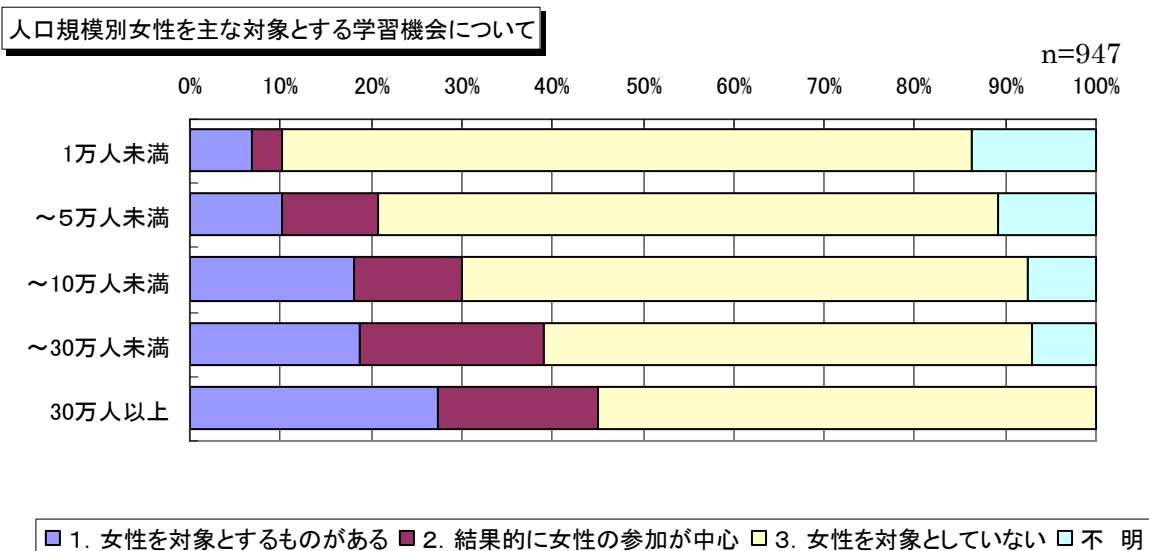
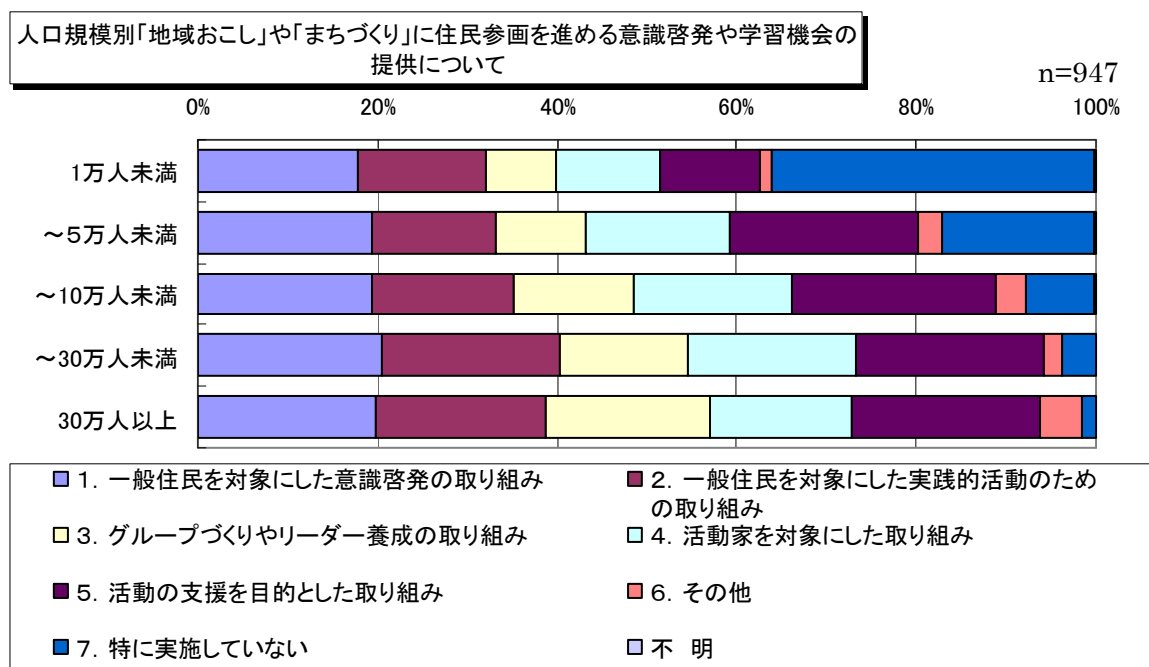
(11) 人口規模別にみた取り組みの状況

人口が1万人未満の自治体では、4割に近い自治体が特に実施していないと回答し、学習機会の提供については、人口規模が大きくなるほど、その実施率が高くなっている。

特に、すでに活動を実施している人のグループ育成やリーダー養成、活動自体への助成などの割合が高くなる傾向にある。

上記の取り組み分野数を単純に合計すると、人口規模が多くなるほど、複数の学習機会を提供している割合が高くなっていることがわかる。

人口規模の小さい町村では、学習機会の提供を行っていない自治体や実施していても、多様な機会の提供にはなっていないところが多い。



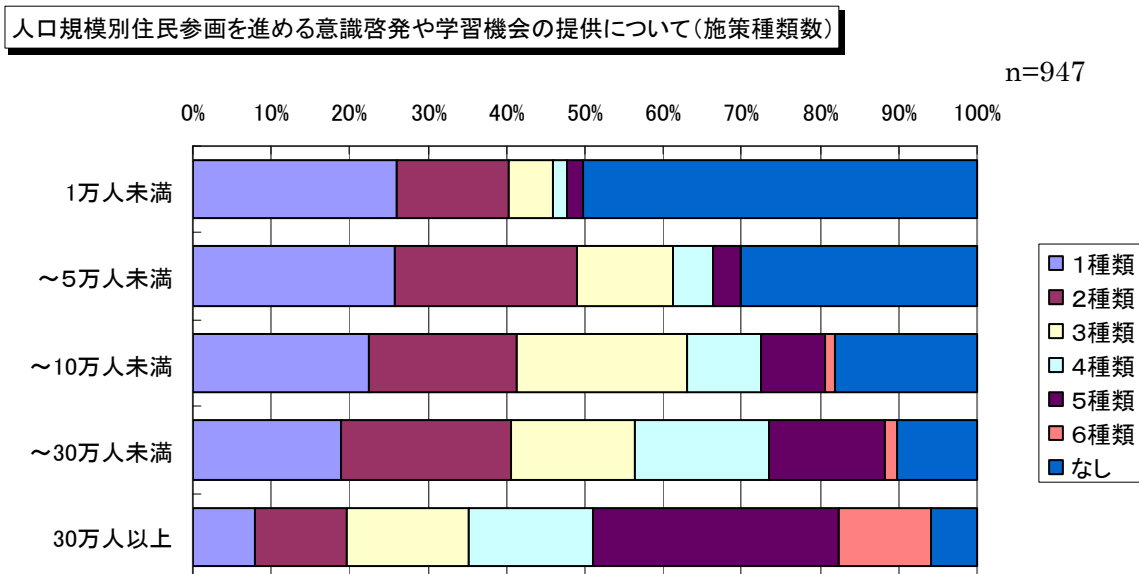
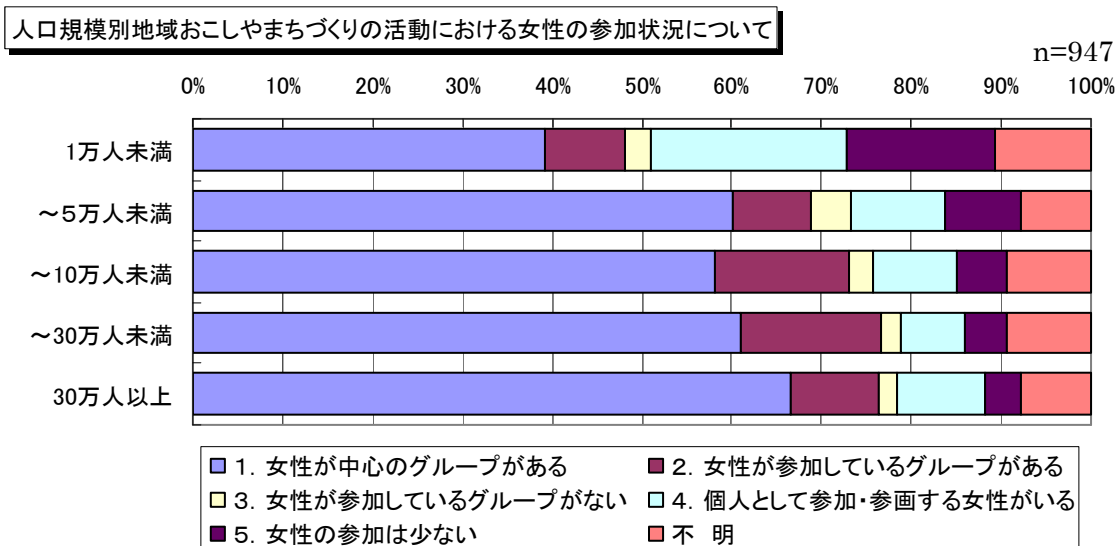
女性を対象とする学習機会の提供状況は、人口規模が大きくなるほど、女性を対象とする学習機会や結果的に女性が多く参加する学習機会が多いことがわかる。

学習機会の提供が少ない小さな自治体では、さらに女性を対象とするものが少ないことから、女性に対する学習機会そのものが少ないことがわかる。

まちづくりへの女性の参加状況は、人口規模が大きくなるほど、地域おこしやまちづくりに女性が参加している割合が高くなっている。

人口1万人未満の自治体では、他都市に比べ、個人で活動する女性の割合が高くなっており、グループ形成が進んでいないことが推測される。

このように人口規模の小さい町村では、女性に対する学習機会の提供も少なく、女性の地域おこしやまちづくりへの参加が少ないことの一因ともなっているものと思われる。



ただし、町村部では農業や町内会等を通じた女性の組織が、依然として機能している地域も多く、自治体の取り組みが少ないことがそのまま女性に対する学習支援や取り組みが少なく、課題となっているということではないことに留意する必要がある。

しかしながら、一方で、既存の女性の組織に対する新しい住民や若い世代の不満があることも、よく聞かれることであり、こうした点にも留意が必要である。

(12) 女性を対象とした学習機会の提供にあたっての課題

以下の課題のとりまとめについては、自由回答のうち主なものを記載している。回答の絶対数が少なく、必ずしも多くの自治体が抱えている共通課題ということではない。

いくつかの自治体では、参加者が固定化する傾向にあり、参加しない住民のニーズを把握できにくいことや、そうした人たちに直接情報を届ける手段、方法に苦慮している。また、講師等についても予算の制約や地域によっては近くに適任者がいないなどの点で苦慮している。

庁内体制等については、女性リーダーの育成は、さまざまな部署に関連する事業であり、情報の共有化やネットワークの必要性を感じているところもある。

さらに、事業実施後の女性リーダーの活躍につなげていく仕組みや内容が必要ではないかという意見もあった。

①住民のニーズや関心の把握について

- ・ニーズや関心の把握方法として、事業後の参加者アンケートや関係団体へのヒアリングなどを行っているが、関心の低い、もしくは参加しない人の意向や、住民全体の意向を把握できていない。
- ・地域の役員等を介して事業を行っており、役員等の意向を把握しているが、当番制の役員もあり、必ずしもニーズや関心を把握できているとは限らない。

②テーマや企画内容について

- ・テーマや内容のマンネリ化が目立っている。
- ・関心の高い生活に密着したテーマを選んでいるが、その次のステップ、実践に結び付く内容・仕掛けが難しい。
- ・担当課、担当者のみが検討しており、アイデアに苦慮している。

③募集や広報の仕方について

- ・イメージの湧きやすい、わかりやすい言葉や表現に配慮しているが、女性に直接的に伝わっていない。新しい参加に繋がっていない。
- ・広報誌やインターネット・ホームページ、チラシなど多様な方法を活用しているが、これらの情報を見ていない人が多いのではないかと。若い人向けには携帯サイトを活用するなど、新しい広報手段も必要である。
- ・学習内容や目的に応じて、広く住民へ情報発信すべきものと、対象を絞って広報することが必要なものがある。それぞれに効果的な情報発信が必要である。

④教材やテキストについて

- ・基本的には講師に一任している。
- ・講師からの情報をもとに、担当課で作成しているが、経費や人材の面で苦慮している。
- ・行政的な表現でなく、わかりやすい内容にする必要がある。
- ・限られた時間内で、理解できる内容や分量にするなどのノウハウが必要である。

⑤講師について

- ・予算の範囲内では講師の選択ができない。講師が固定化してしまう。
- ・都市部から離れている地域では、地域内や近隣に講師が少ない。
- ・専門的になりすぎないように配慮している。

⑥行政内の体制について

- ・これまでの部や課を越えたネットワークが必要である。
- ・担当する職員に女性が少なく、事業が縦割りになりがちで、連携が取れていないことがある。
- ・情報の共有が大事であるが、個々の自身の業務が手いっぱいというのが実情となっている。
- ・事業によって柔軟に協力できる体制づくりが必要である。
- ・女性リーダーの育成については、男女共同参画推進事業としてだけでなく、あらゆる事業の中で意識していく必要がある。

⑦その他

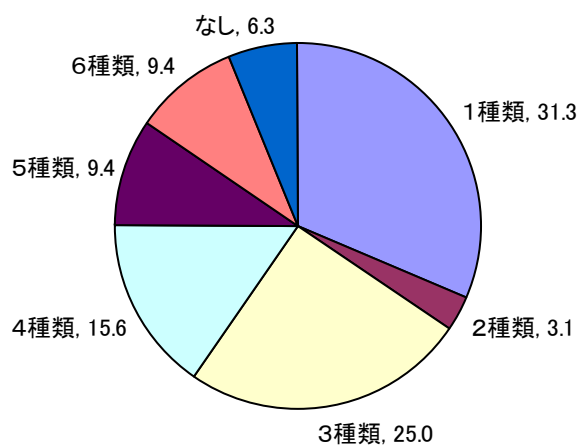
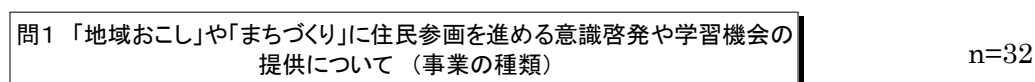
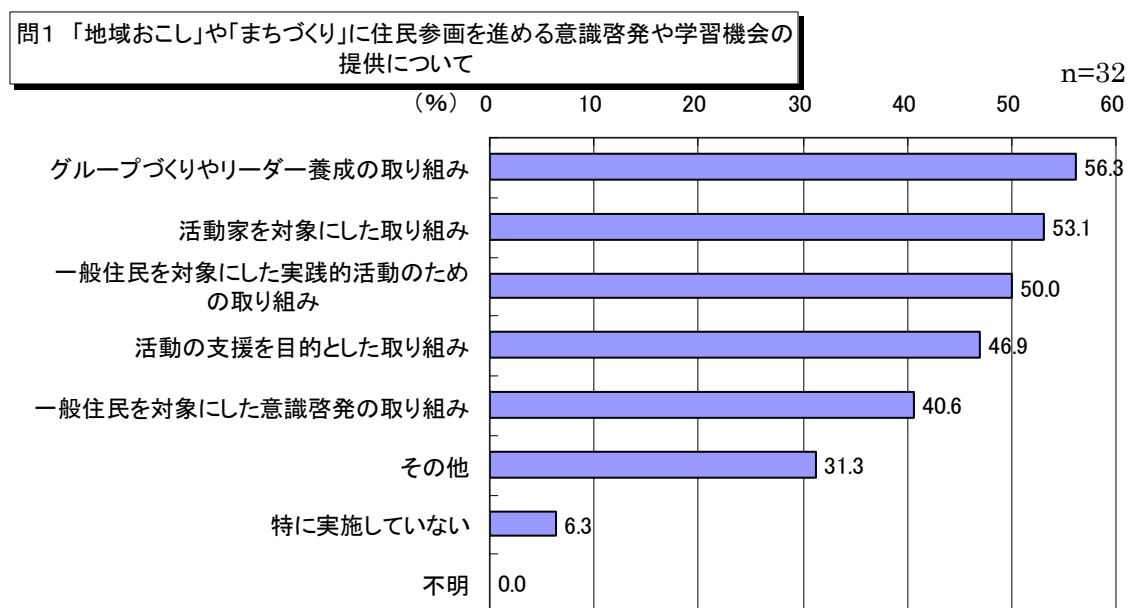
- ・女性リーダーの発掘・育成まで到達できておらず、行政がどう仕掛けていくかが課題である。
- ・Plan－Do－Check－Action の検証から改良のシステムができていない。
- ・まちづくりや活性化に「活かす」事業としていくことが必要である。
- ・女性が参加しやすい家庭・地域であるための理解や協力を得られる工夫が必要である。
- ・講座修了生に対するその後の支援を継続的に実施し、積極的・意欲的に活動するグループを育成する必要がある。
- ・参加型学習が求められているが、この学習方法には抵抗を感じる参加者もあり、参加者の学習体験を考慮する必要がある。

3-2. 都道府県の取り組み

(1) 地域おこしやまちづくりの学習機会

都道府県では、半数を超える団体で、グループ育成やリーダー養成、活動家を対象としたネットワーク形成の支援、一般市民を対象とした連続講座やワークショップなどの学習機会の提供を行っている。

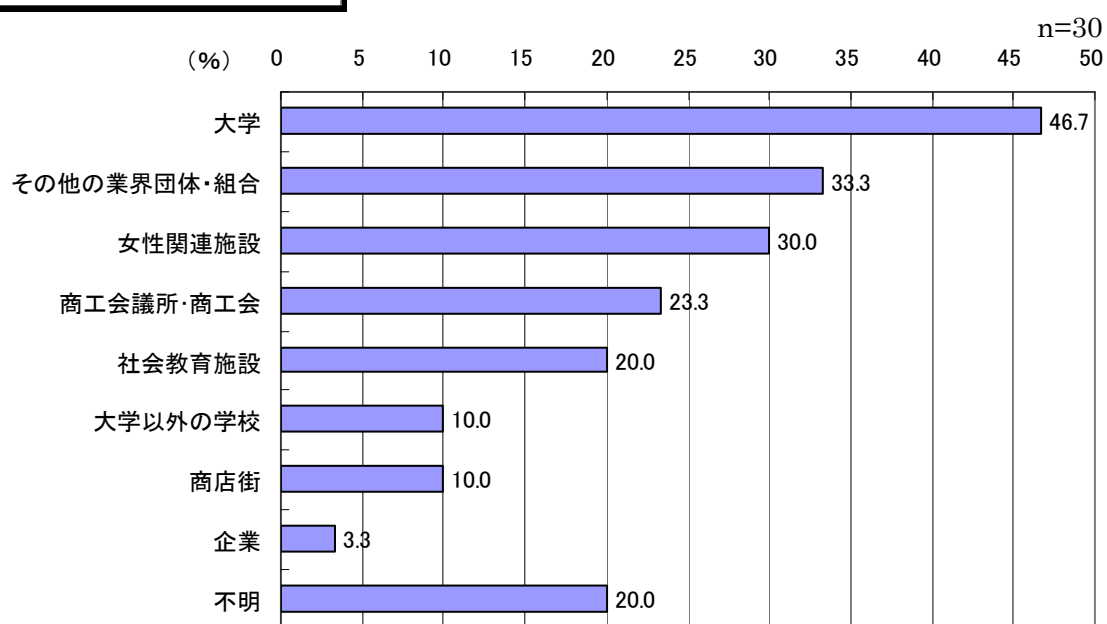
市区町村とは異なり、すでに活動している人への支援や、ネットワークや協議会というような学習機会の提供が多くなっていることがわかる。



(2) 連携・協働する団体

連携・協働する団体については、大学が 46.7%と最も多く、次いで商工会議所・商工会以外の業界団体・組合が 33.3%となっている。また、女性関連施設についても 30.0%となっており、市区町村との相違を見せている。これは、女性関連施設の整備状況が市区町村より都道府県で高いことも一因となっているものと思われる。

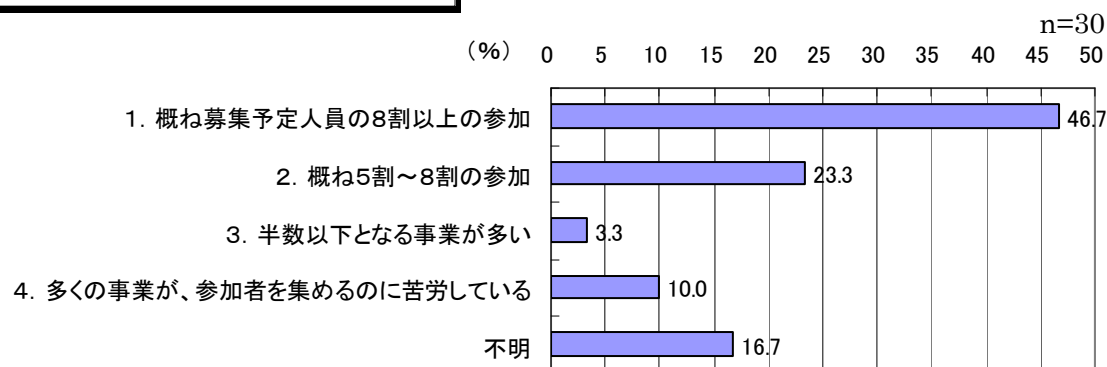
問2 連携・協働する団体について



(3) 参加状況

都道府県では、8割以上の参加をみているところが半数近くを占め、市区町村よりも参加実態が高いことがうかがえる。

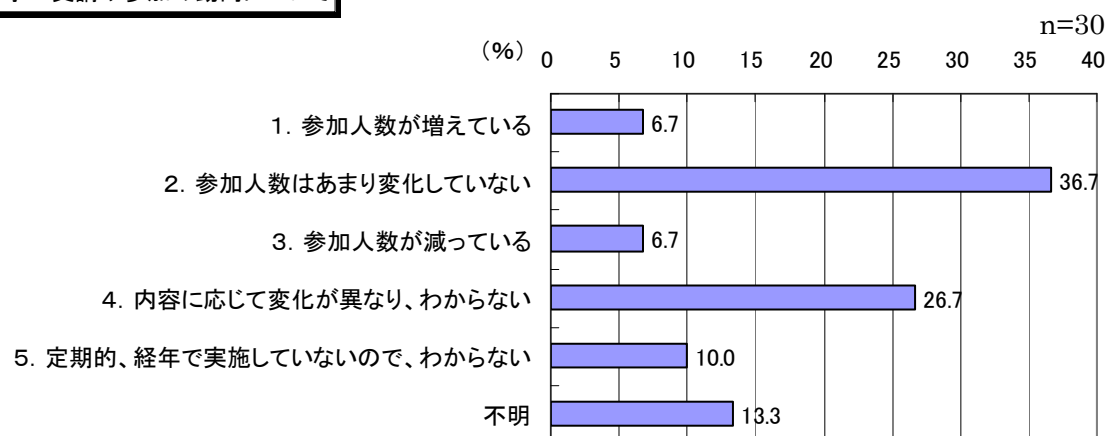
問3 住民の参加(受講や参加)状況について



(4) 受講や参加の動向

わからないとする団体が多いが、あまり変化していないと感じている団体が36.7%となっている。増えているとする団体、減っているとする団体はいずれも1割未満となっている。

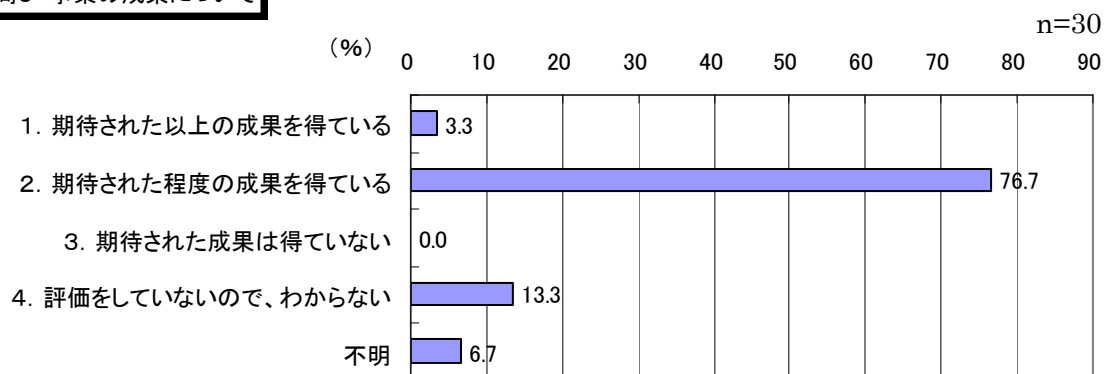
問4 受講や参加の動向について



(5) 事業の成果

事業の成果については期待したとおりの成果を得ていると考えている団体が8割弱を占め、概ね良好であると評価していることが伺える。

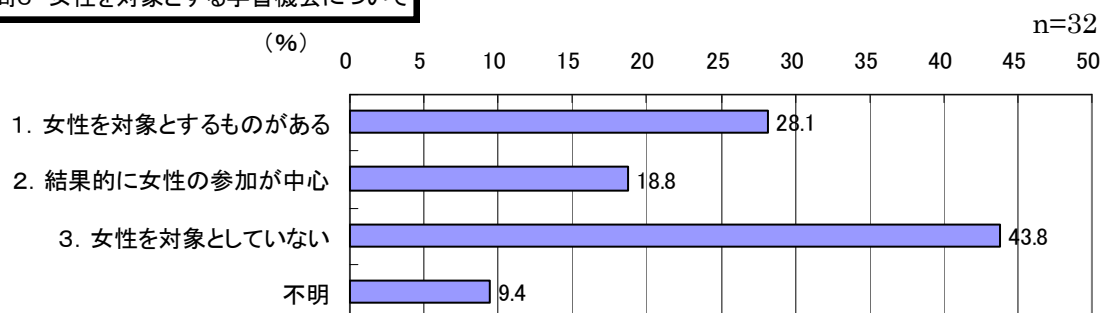
問5 事業の成果について



（６）女性を対象とする学習機会

４割を超える都道府県では、女性を対象と限定する学習機会が行っていないと回答しているが、市区町村に比べて、女性を対象する学習機会や結果的に女性の参加が多い学習機会が多くなっている。

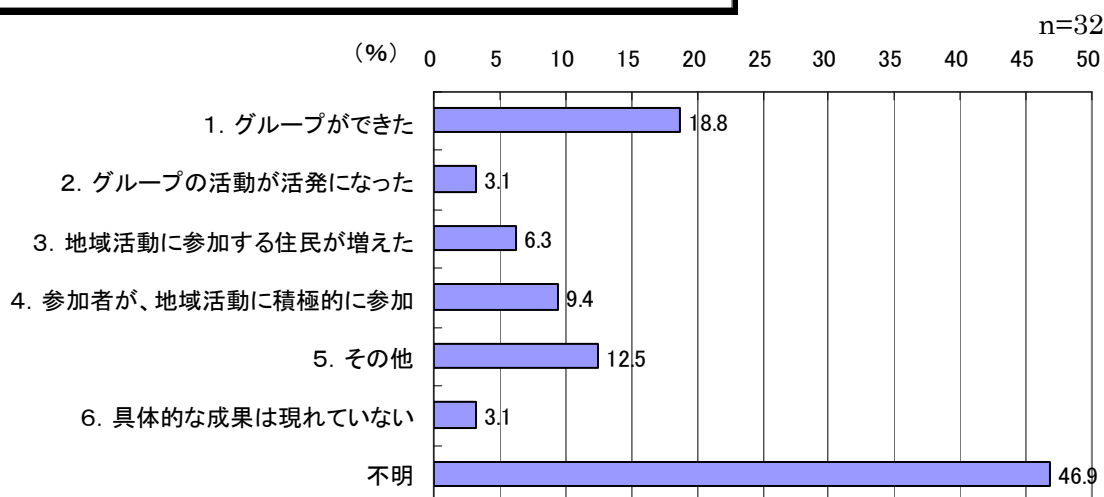
問６ 女性を対象とする学習機会について



（７）女性を対象とした学習機会の提供に対する成果

半数の団体が不明と回答しているが、新たなグループができたとする団体が２割弱、参加者が地域活動に積極的に参加するようになったが１割弱となっている。

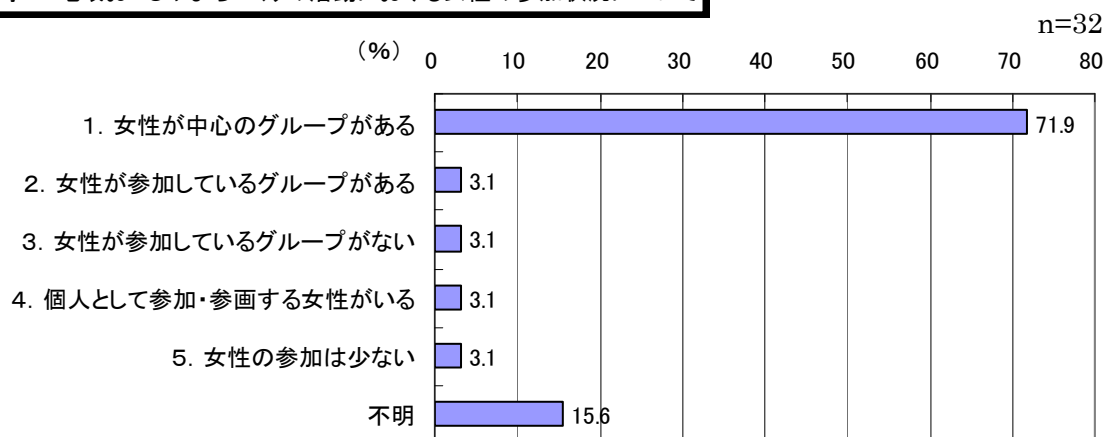
問９ 女性を対象とした学習機会や場の提供といった事業の成果について



(8) 地域おこしやまちづくり活動における女性の参加状況

女性が中心のグループがあるとする団体が7割を超えている。

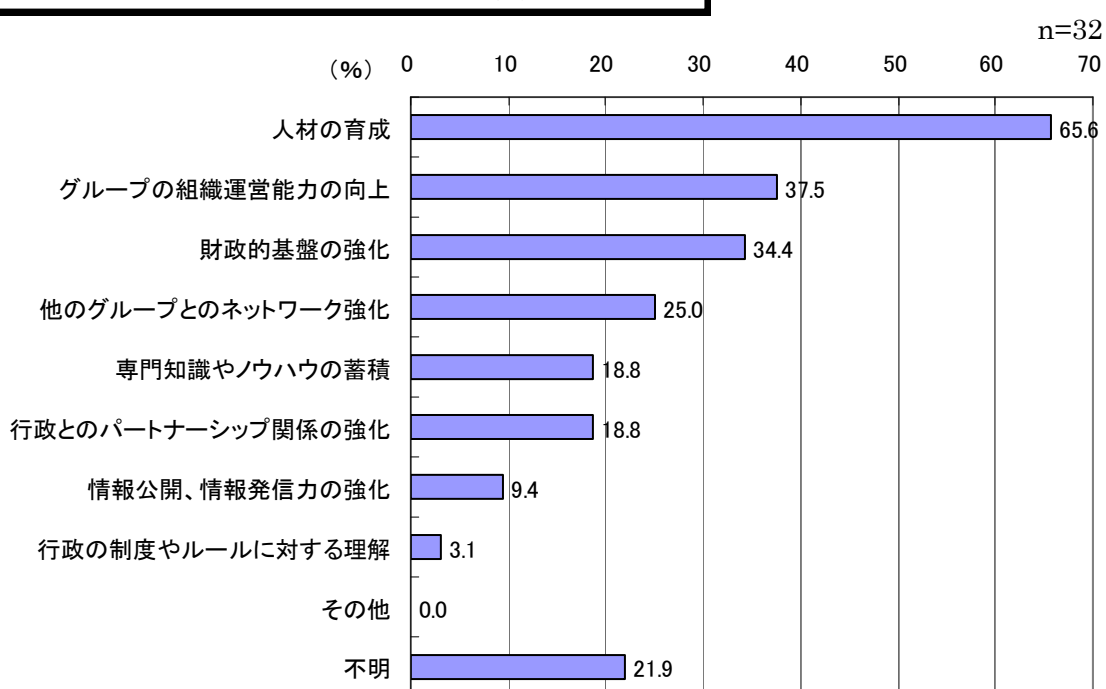
問10 地域おこしやまちづくりの活動における女性の参加状況について



(9) 女性まちづくりリーダーやグループに望むこと

女性まちづくりリーダーやグループに望むことについては、人材の育成が65.6%と最も多く、次いでグループの組織運営能力が37.5%、財政的基盤が34.4%などとなっている。

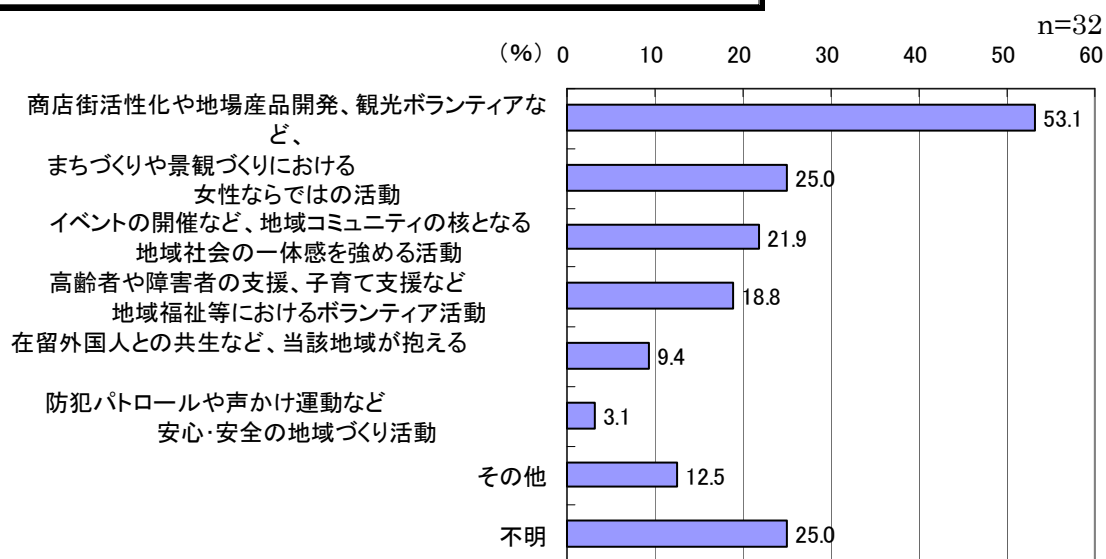
問13 女性まちづくりリーダーやグループについて、今後さらに望むこと



(10) 女性まちづくりリーダーやグループに期待する分野

市区町村では、地域コミュニティや地域福祉の担い手としての期待が高かったのに対して、都道府県では、地域活性化の新たな担い手（商店街活性化や起業家、観光ボランティアなど）への期待が高くなっている。

問14 女性まちづくりリーダーやグループに、さらに活躍を望む分野について



(11) 市区町村への支援

都道府県の市区町村への支援については、4割の都道府県で担当者への情報提供をあげている。

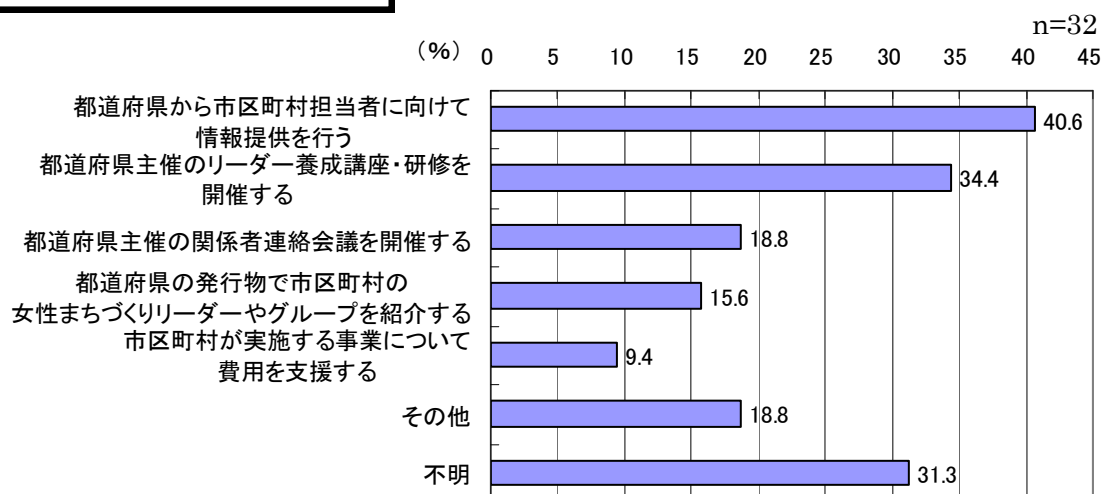
直接的なリーダー養成講座・研修を実施している都道府県は、34%となっている。

1割の都道府県では、市区町村の事業費の助成・補助を行っている。

人口規模の小さい町村では、学習機会の提供や女性を対象とする取り組みができていない。

こうした町村に対しては、都道府県が代わってリーダー養成講座や研修機会を増やすことも考えられる。

問15 市区町村への支援内容について



(12) 女性を対象とした学習機会の提供にあたっての課題

以下の課題のとりまとめについては、市区町村と同様、自由回答のうち主なものを記載している。回答の絶対数が少なく、必ずしも多くの自治体が抱えている共通課題ということではない。

いくつかの都道府県では、直接的に住民の意向を把握することは困難であり、女性グループやNPOなどのネットワークを活用している。また、若い世代や子育て世代の参加を増やすために、生活に密着した内容や、修了後、参加者が具体的に行動できる内容などが必要と考えている。

一方で、内容について市区町村と同じような内容を実施しているという指摘もあった。

情報発信については、より効果的な手段、方法とすることが必要であると認識しているが、効果的な方法が見当たらないという意見もあった。

講師については、地域の課題や実情をよく知っている人が望ましいが、地域によってはなかなか見つからない状況が指摘されている。

その他、学習機会を提供し、課題解決のための知識や技能を身につけた人材やグループを次につなげたり広げていったりするための手立てが必要であるというような意見がある。

①住民のニーズや関心の把握について

- ・ 県のパブリックコメントや地域ミーティングでは子育て世代や高齢女性等の声は収集しにくい。事業の企画や事前調査から NPO や女性グループの視点やネットワークを取り入れることが有効である。
- ・ 参加者の意向は事業後の振り返りやアンケートにより把握できるが、県下の対象全体のニーズを把握するのは困難である。

②テーマや企画内容について

- ・ 講座が理論的であり、堅苦しい内容と誤解され、敬遠される。自らに直結する内容も含んでいるが、個々の生活スタイルに違いやどこか他人事のように捉えられてしまい、必要性が高まらない。
- ・ 参加することにより「得する」「つながる」「いいことが待っている予感」が感じられる内容と、子育て世代が参加しやすい環境（託児サービス、時間設定等）作りが重要である。
- ・ 修了生が地域で実践しながら、より能力を高めるためのアフターフォローの実施が必要である。
- ・ 同様の講座を他課や市町村でも開催しており、内容が重複している。

- ・地域ごとに課題が異なっていると思われるが、同じような内容の事業が多いのではないか。

③募集や広報の仕方について

- ・参加した人の感想では、テーマ・内容は好評であるので、いかに広く周知するかが課題である。広報周知に課題があり、定員人数までの参加がない。
- ・女性グループ等のネットワークに参加している人への周知が中心となり、女性全体への広報ができていない。
- ・テーマや講座内容の違いで対象が変わってくるので、それぞれに応じた広報手段や募集先の工夫が課題である。
- ・広報誌やマスコミ広報ではなく、保育所や PTA、大型小売店舗、サークル活動等を媒体とした PR が有効である。
- ・対象に届く広報媒体をいかにうまく見つけられるか。

④教材やテキストについて

- ・各団体とも講師から提供された資料や、独自に作成したワークシートやアンケート等を工夫して使用しているが、さらに学習効果を高めるためには、効果を検証し、改善していく必要がある。
- ・「要は何なのか」「自分の立ち位置はどこか」が分かりやすい資料の方が、充実したワークができる。

⑤講師について

- ・地域の人材を中心に、テーマや学習内容に合う講師の選択を行っているが、新たな人材発掘や育成が課題である。
- ・専門家よりは、人間関係力のある講師の方が高校生から 40 歳代の幅広い女性には受け入れられやすい。自分に役立つ情報が求められている。
- ・地域の問題をよくわかっている講師を選択したいが、地域には、プログラムに適した講師を見つけることが困難な場合が多い。

⑥行政内の体制について

- ・担当課内に限らず、講座内容や実施形態、対象者等に応じた部局との協力・連携をさらに進めていくことが課題である。

⑦その他

- ・学習機会を提供し、課題解決のための知識や技能を身につけた人材やグループ

を次につなげたり広げていったりするための手立てが課題である。

- 地域推進委員がいる市町村といない市町村があり、事業の実施等で不公平感がある。
- 参加者の高齢化とメンバーの固定化が課題である。
- これからの地域の女性リーダーとして 30～40 歳代を対象としているが、その年代の女性は公私ともに多忙な時で参加しにくい。家庭を優先せざるを得ないという女性特有の問題が、継続して参加することを難しくし、運営にも影響している実態がある。
- 県庁所在地で実施しているが、遠い地域の方の参加が難しい。

4. 女性の地域おこしやまちづくり活動への参加を促進するための

学習支援のあり方

地域おこしやまちづくりを進めていくためには、まちづくりグループが誕生し、活動が継続していくことが重要である。

そのためには、一般の個人が課題に気づき、課題を共有する人たちに会い、活動するグループ（組織）へと発展していくことが不可欠である。

まちづくり活動はもっと活発にしていくためには、その各々の段階や場面で、発展を促進し、可能性を広げる支援が必要である。

ただし、気づき、共有、グループ形成、継続の活動の流れは、そのような段階をすべての活動において、その流れで発展していくということではなく、そうした場面での教育・学習支援が求められるということであり、一人の女性を段階を追って育成し、リーダーと育てていくという意味ではなく、活動を進める女性に対して、ある場合は気づきの支援であったり、また別の女性にはグループ形成や運営能力に関する支援があるとよいというような視点であることに留意する必要がある。

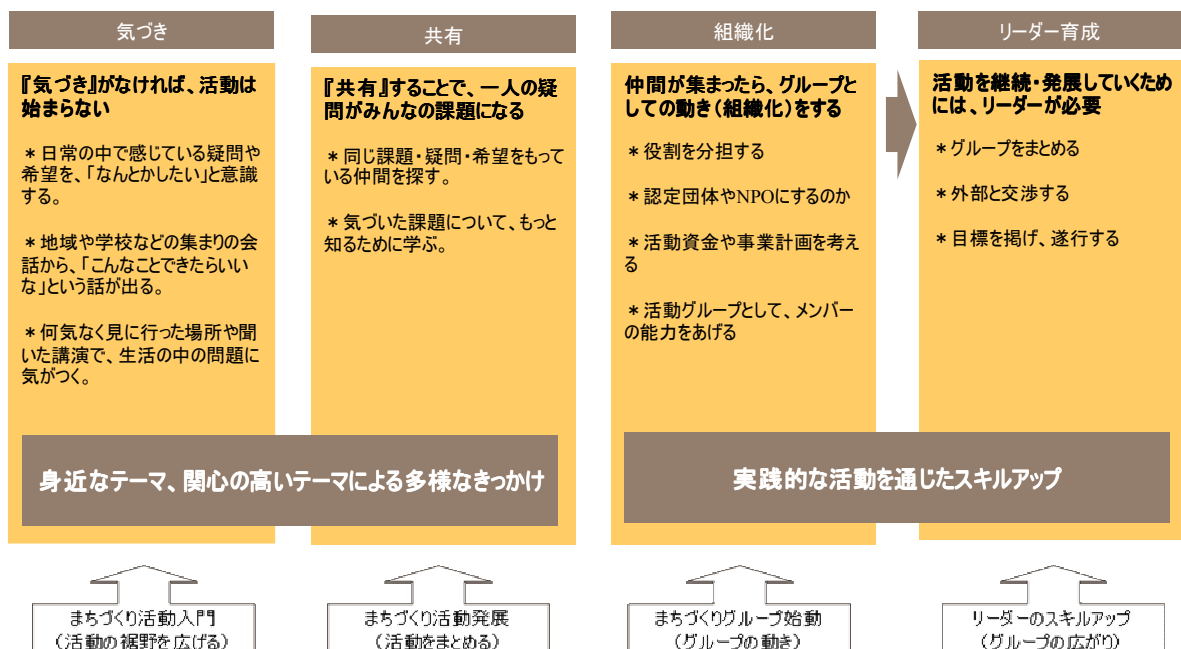


図 地域おこしやまちづくりを進めるなかでの教育・学習支援の場面

4-1. 気づきの場面での教育・学習支援のあり方

地域おこしやまちづくりにおいても、まずは「気づき」が必要不可欠であり、「気づき」の生まれる場が提供されることが必要である。

自治体においても、各種のセミナーやイベントを開催し、「気づき」の場の提供に努めており、様々なテーマやあらゆる機会を通じて、継続的に実施し、参加の間口を広げていくことが重要である。

その際、「気づき」のパターンがいくつかあり、地域の実情や課題に応じて、セミナーやイベントなどが実施されることが望ましい。

こうしたきっかけとなる「気づき」の場の提供については、活動のきっかけとなるよう、他の活動事例の見学会（フィールドワーク）やワークショップや意見交換など、受け身の座学的なものより、能動的に関われるものがよい。またセミナー等についても、参加者が最初に、それぞれの問題意識を紹介しあうなどによって、より参加者の関心に沿った講義となったり、問題意識を持って参加できるなどの工夫が効果的である。

気づきの類型例① 気づき発掘型

環境問題の現場見学や街歩きの会など、イベント感覚で気軽に参加できる機会を提供することで、他の地域を視察するだけでなく、自らが住んでいる地域を歩くことにより、知らなかったことを再発見し、地域の課題に気づくことも多い。

事例

事業名	女性ふるさとづくり事業
自治体	長野県高森町
目的	同じ地域に居住する女性の立場や世代を越えた交流 地域環境を女性の視点から見つめ直し、地域課題を解決
開催方式	町内 21 地区ごとに、視察・学習会・講演会等の事業を企画
内容	地区ごとに視察・学習会・講演会等の事業を町民が主体となって企画から実施する。役場女性職員全員が各地区の担当職員となりサポートする。 これらの活動に対して、要綱に基づき、補助金を支給する。
開催状況	21 地区で開催。参加延べ人数 500 人弱（平成 19 年度）
成果	わが町を見直すという町内をめぐる事業が多くなっており、この中で「ないものねだり」から「あるもの探し」へ意識が変化している。 さらに行動へ繋がるよう仕掛けが課題となっている。

気づきの類型例② 仲間先行型（ネットワーク型）

地域行事やイベントに運営スタッフとして参加協力を求めるなど、地域の仲間づくりやグループへの参加の機会を作ることが考えられる。グループや仲間と話すうちに、いろいろな課題に気づいていくこともある。

また、子育て終了後に、何かをやろうと思い始めた時に、関心のあるセミナーに参加することで、同じ仲間と共有の場がもたれ活動へと発展していく場合もある。

気づきの類型例③ 課題先行型

「気づき」に際しては、自分の課題を地域の問題としてとらえ、自主的に活動しようという意識（当事者意識）を持たせることが必要となる。

例えば、PTAや保護者会は子どもを通しての地域の課題を話す場となり、問題も共有化され、地域課題解決のための活動のきっかけになりやすい。このように日頃地域で生活していて課題に思うことなどを自由に話せる場があるとよい。ただし、PTA等については、子どもの卒業とともに、活動が終わる人も多く、次のステップへと活動を継続させるための仕組みが必要である。

4-2. 共有の場面での教育・学習支援のあり方

「気づき」の場面と共有の場面は同じであることも多い。活動は、ひとりではできないため、同じ関心を持つ人どうしがコミュニケーションをとって、関心や課題を共有していく必要がある。そのためには、コミュニケーションをとれる時間と場が提供される必要がある。

共有の機会についても、「単発」では終わらず、「連続」とさせることで、考えや仲間が熟成されていくことから、例えば、環境、子ども、防災、街並みなど、テーマを絞ったセミナー等を開催することで、同じ関心（課題）を持つ人が集まり、集まった参加者どうしのコミュニケーションや、分科会開催の場や時間を確保するなど、こうした場の提供が考えられる。

事例

事業名	男女共同参画リーダー養成講座
自治体	大阪府富田林市
目的	男女共同参画計画ウィズプランに基づき、政策、方針決定の場への女性参画促進を目指し、地域社会におけるリーダーの養成を行う
開催方式	セミナー形式（連続講座）
内容	平成8年度より連続講座（1テーマ2カ年20回程度、平成18年度より1テーマ1カ年10回程度に変更）を開催 女性問題入門や行政の仕組み、事業企画実践者養成、法律問題などをテーマに学習
工夫	託児サービス 下校時間の早い日を避けるなど、出かけやすい曜日、時間帯に設定
開催状況	各テーマの修了生は4～22名が修了（8割以上の参加と課題提出した人）
成果	修了生が講師となり講義やワークショップを実施 電話相談員として活躍 市民活動グループの立ち上げ

4-3. 組織化の場面での教育・学習支援のあり方

まちづくりグループ活動も人数が増えていくに従い、役割の分化、組織化が必要となってくる。外部に対して、組織としての動きをするとともに、内部でも複数の人間がスムーズに活動できるよう、運営する必要がある。

①活動の場

グループとして活動するための拠点が必要となる。ただし、活動の拠点は、個別に設けられるより、地域センターなど様々な活動グループが拠点として活動しているような場所の方が、新たな交流が生まれるなどの可能性もあり、身近な場所でこうした場所が確保できるとよい。

②行政を知る

女性まちづくりリーダーからは、行政とのパイプを作ることが必要という意見が多い。

実際に、行政と協働（事例②）する機会を設けることで、行政の仕組み、行政への意見の伝え方等を学ぶ機会となることも多い。

事例

事業名	井戸端会議から始まる地域づくり
自治体	広島県庄原市
目的	参加者が楽しみながら地域づくりについて学習する機会とし、身近なところから始められる地域づくりを実践する人材を育成
開催方式	ワークショップ形式
内容	テーマに応じて1時間程度の講義ののち、参加者の交流を目的とする昼食を経て、ワークショップを開催 ワークショップは地域資源の掘り起こしから活用方法等について検討
工夫	楽しみながら参加できる内容（スイーツ、昼食会など）をおり込んでいる 地域づくりの広い範囲の中で、個人としての意見を大切にされる場づくり
開催状況	2か月に1回程度。毎回20名程度が参加
成果	市の商工観光課の事業である「里山バスツアー」の1つを参加者が企画。地域資源を活かした体験企画を行い、広島方面より40名が参加。

③活動資金・事業計画・事務

課題解決のための事業をどのように進めるのかといった全体計画や、行政の仕事などを受託するための企画書や資金計画等を作成する必要も出てくる。グループによっては、NPOとして登録をするなどの事務手続きもありうる。

社会起業家セミナー等として行われているような事務系の知識・スキルの支援も効果的である。

事例

事業名	女性のためのさっぽろ起業道場
自治体	札幌市
目的	創業に向けた実践的知識・スキルの習得
開催方式	少人数（定員 10 名）によるセミナー形式
内容	起業塾のほか、女性の起業体験談（1 回）、女性の起業説明会（6 回ほぼ隔月）を開催し、起業に関心のある女性に対して、連続 10 回の起業のための講座を開設。 さらに起業コーディネーターが事業計画の立案などについてアドバイスを行い起業に結びつけている。 （同事業はシニアも対象としている） 講義概要 ①自らの強みと機会を捉える ②勝つための土俵選び、事業の目のつけどころ ③売るしくみと利益、マーケティングの基本 ④成果を上げるために考えるべきこと ⑤事業計画書の作成の注意点 ⑥情報発信と効果的なプレゼンテーション ⑦起業時の財務の注意点 ⑧必要資金と資金調達を考える ⑨先輩起業家との意見交換 ⑩起業計画の発表
工夫	平日夜間コース、短期集中コース、休日土曜コースの 3 コースの中から参加日を選ぶことができる。
開催状況	3 期（各期 10 講義）合計 24 名参加（うち女性 21 名）（平成 20 年度）
成果	平成 18・19 年度の 2 カ年で、女性 21 名が起業。

また、事業の開始から、実施、報告、評価までを一貫して体験できる実践的な学習機会も効果的である。

事例

事業名	U J I 女性会議
自治体	京都府宇治市
目的	女性の人材育成・エンパワーメントを図る 企画力、実践力、マネジメント能力を身につける
開催方式	セミナーおよびワークショップ形式
内容	前年のU J I 女性会議で提案されたシュミレーションオフィスを実際に運営するための手法の学習 事業の企画、事業計画（予算書、見積書）の策定、実現のための戦略をワークショップ形式で検討し、具体的に事業を実施。 さらに、事業報告から事業評価までを行う。
工夫	保育サービス（0歳～小学3年生まで）
開催状況	全7回開催、延べ80人が参加
成果	提案された事業のうち具現化された事業あり

④グループの運営

様々な人が集まり、ともに活動する際に、話し合いや意見の調整、アイディアの持ち寄りなど会議技術や人間関係の調整も必要となってくる。グループごとのルール作りとともに、会議やディベートなどのトレーニング、ファシリテートやコミュニケーション・デザインなど専門的な能力も必要となることから、こうした技術やノウハウを身につけることのできる教育・学習支援が必要である。

⑤メンバーの能力向上

女性の活動に際してのマイナス面として、「感情的な話し方をする」ということが指摘される。グループとして社会活動をするには、客観的な話し方、意見の伝え方は重要であるので、話し方技術の学習は必要である。

また、基本的なスキルとして、パソコンでの文書作成・インターネット・メール等を身につける機会も必要である。

4-4. リーダー育成のための教育・学習支援のあり方

まちづくり活動グループのリーダーの決まり方は、様々である。最初に始めた人、人柄からメンバーに推された人、年長者、輪番制のところなどもある。

リーダーの資質で、素晴らしい統率力を持つ人もあるが、どのようなリーダーでも、グループの活動を継続・発展するために、直面する問題がある。

①グループの統率

一緒に活動するメンバーへの伝達や、メンバーどうしの話し合い、またはメンバー内での人間関係のトラブルなど、リーダーとして統率力を発揮しなければならない場面がある。

必要とされるのは、「コミュニケーション力」、「ファシリテートの技術」などである。

②外部との交渉

まちづくり活動では、行政との交渉や協働する他団体など、外部との窓口はリーダーがしている。

技術的なものは、リーダーに限らず、「客観的な意見」として伝えることだが、ネットワークを広げること、ネットワークになりそうな会に参加をするなど、外部の連携を増やすことが重要になる。そのような機会が設けられることも支援となる。

③活動の発展・展開

活動の発展には、常に目標を掲げ、達成したら次の新たな目標を掲げることが必要である。「組織化」であげた事業計画等のセミナーに加え、様々な他団体の活動を知り、可能性を広げることも必要である。

リーダーにとっては、座学で学ぶ理論や技術よりも、活動の中で直面し、その都度判断しながら身につけるものが多い。

他の活動する団体・グループと交流する機会、例えば「全国まちづくりグループ活動発表会（連絡会）」や地域ごとの分科会などの機会を持ち、ヒントを得たり、リーダーならではの問題点を話す機会があることも有効だと思われる。

学習支援ということが直接的な目的ではないが、リーダーにとって様々なスキル向上の場として、提案型の事業を募集により、実践の場を提供しているところも多い。

事例

事業名	キーワードモデル事業（ボランティア・NPO等提案型）
自治体	広島県福山市
目的	市民活動団体が、自主的・主体的に企画・実施する市の重点政策であるキーワードに沿った公益的な事業を促進するため、一定の助成を行い、市民と市の協働による街づくりを推進する
内容	市の重点政策（キーワード：教育、環境、活力、福祉、安心・安全）に沿った公益性のある事業を実施する団体に、事業費の一部を助成 （事業採択のため、事業計画書ほか審査会でのプレゼンテーション、事業の実施、事業完了後の報告書作成、公表など全事業過程を通じて、事業実施のためのノウハウ、技術の蓄積）
成果	「レジ袋いりませんプロジェクト」「生き生きふくやま相談窓口ガイドブック作成」などが女性リーダー中心に実施された

事例

事業名	男女共同参画学級開設委託事業
自治体	山梨県富士市
目的	男女共同参画に関連した課題についての学習を支援することによって、市民グループの育成、活性化を図るとともに、男女共同参画の視点に配慮した市民活動を推進する
開催方式	連続講座、学習会等の開催
内容	13 団体に以下の活動を委託 ①グループまたは市民を対象とした連続講座の開設 ・年間 5 回以上、計 24 時間以上 ・男女共同参画に関連する課題を学習内容とする ②市主催の男女共同参画に関する研修会等への参加
開催状況	各団体が事業計画に基づき、年間 10 回程度の講座を開催
成果	各地区女性団体の活動の活性化 男女共同参画に関する学習の推進

4-5. 先進的な教育・学習支援の取り組み

以下の2事例では、特に女性リーダー育成において、具体的な事業展開までを講座内容として実施しており、実践的な学習の中で、活動に至るノウハウ・技術を学んでいる。また、学習を通じて新たな仲間づくりやネットワーク形成を図るとともに、修了後、各自・グループによって、新たな事業が実施されている。

(1) 宇治市の取り組み

京都府宇治市では、気づきの場や共有の場を提供する学習支援として、各種セミナー・イベントを開催しているほか、「UJI 女性会議」を平成13年度から開始し、特に平成17年度からは、実践的なワークを重視した講座を実施し、具体的な活動に繋がる女性リーダー育成を目指している。

①気づきのきっかけ、共有の場づくり

○各種セミナー・イベント

平成19年度実施事例

事業名	概要
男女共同参画週間 UJI のつどい 2007	7月1日(日) 記念講演「夢を編む～男らしさ、女らしさより“あなたらしさ”を～」 広瀬光治氏((社)日本編物文化協会理事)
表現セミナー	9月4日(火)～25日(火)(全4回) 写真表現塾「自分史写真帳を作ってみよう」 野寺夕子氏(フォト・ライター)
自己尊重・自己表現セミナー	5月18日(金)～7月6日(金)(全8回) 「もっと自分を好きになる ～自分を知り・認めるための6つのレッスン～」 宮本由紀代氏(大阪心のサポートセンター代表)
女性の表現フェスティバル 2007	10月28日(日) 「あなたにしかできない「表現」見つけませんか」 センター企画 ・野寺夕子と語る“私の遺影” ・映画上映「わたしのニキ」 ・作品展示&トークライブ「おかよこのミエカタ」 ・「私」な漢字 大発表! ・自分史写真帳展示会

事業名	概要
	持ち込み企画 ・ ゆめカフェ ・ 津軽こぎん刺し体験 ・ saahko 音楽ライブ ・ ママさんプラス UJI お披露目ライブ ・ 大正琴演奏&体験 ・ からだほぐし&表現遊び 等
女性と健康セミナー	11月10日（土） パネルディスカッション 「なぜやめられないのか 私のなかのプチ依存」 有賀やよい氏（精神科医）
再就職拡大セミナー	12月8日（土） 「見つけたい！働く“わたし”になる方法」 佐々木妙月氏（(株)情報の輪サービス 代表取締役）
男女共同参画基礎講座	2月10日（日）～24日（日）（全3回） 「男も女も生きるって大変？」 伊田広行氏（立命館大学非常勤講師）
国際女性デー関連イベント	映画上映 「オフサイド・ガールズ」

②女性リーダー育成の取り組み

○チャレンジ支援事業（平成17年度・18年度）

宇治市では、平成17年度に「宇治市発展特別枠ゆめ創造21」として、魅力ある「ふるさと宇治」の発展を礎となる事業を実施することとし、男女共同参画課では、2カ年事業として「市民活動支援ここからチャレンジ事業」が採択され、さまざまな分野にチャレンジする女性の支援を行っている。

【事業内容】

■ここからチャレンジセミナー（NPO等の設立講座）

□基礎講座（5回）

・協働、社会的起業、非営利活動、成功事例、企業形態などをテーマとした講座

□選択講座

・起業のための事業プラン、NPO法人の申請手続きや地域活動の実践プログラムなどを学ぶ講座 ※起業コースでは、宇治商工会議所が実施する「創業塾」に参加

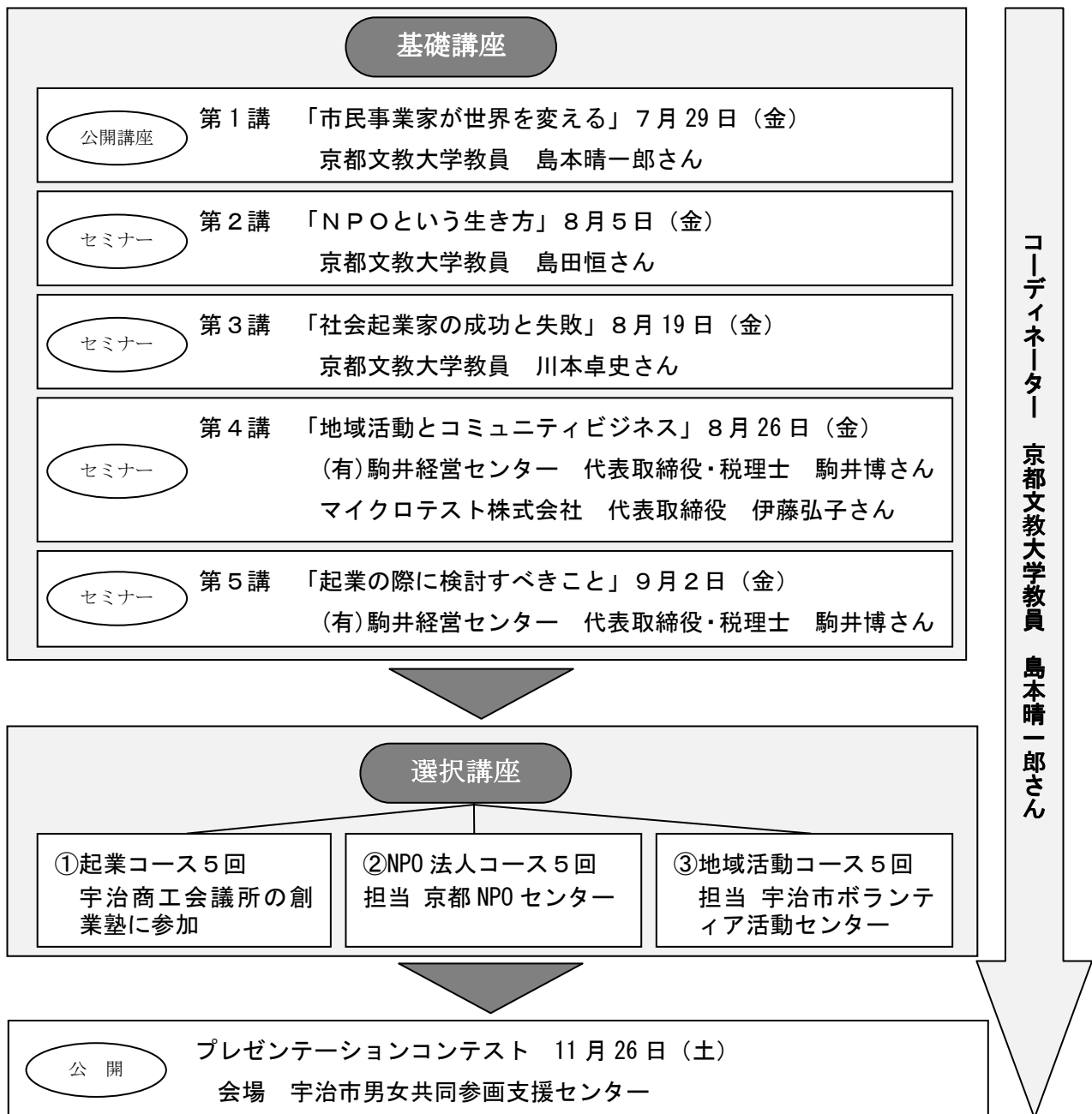
■ここからチャレンジ相談

相談員によるヒアリング（毎月2回）とインターネットによる情報提供

2005年度 ここからチャレンジセミナー

1. 基礎講座（5回） 日時：平成17年7月29日から9月2日（8月12日を除く）
金曜日 19:00～21:00
2. 選択講座（5回） 日時：平成17年9月～11月
受講生32名

全体の流れ

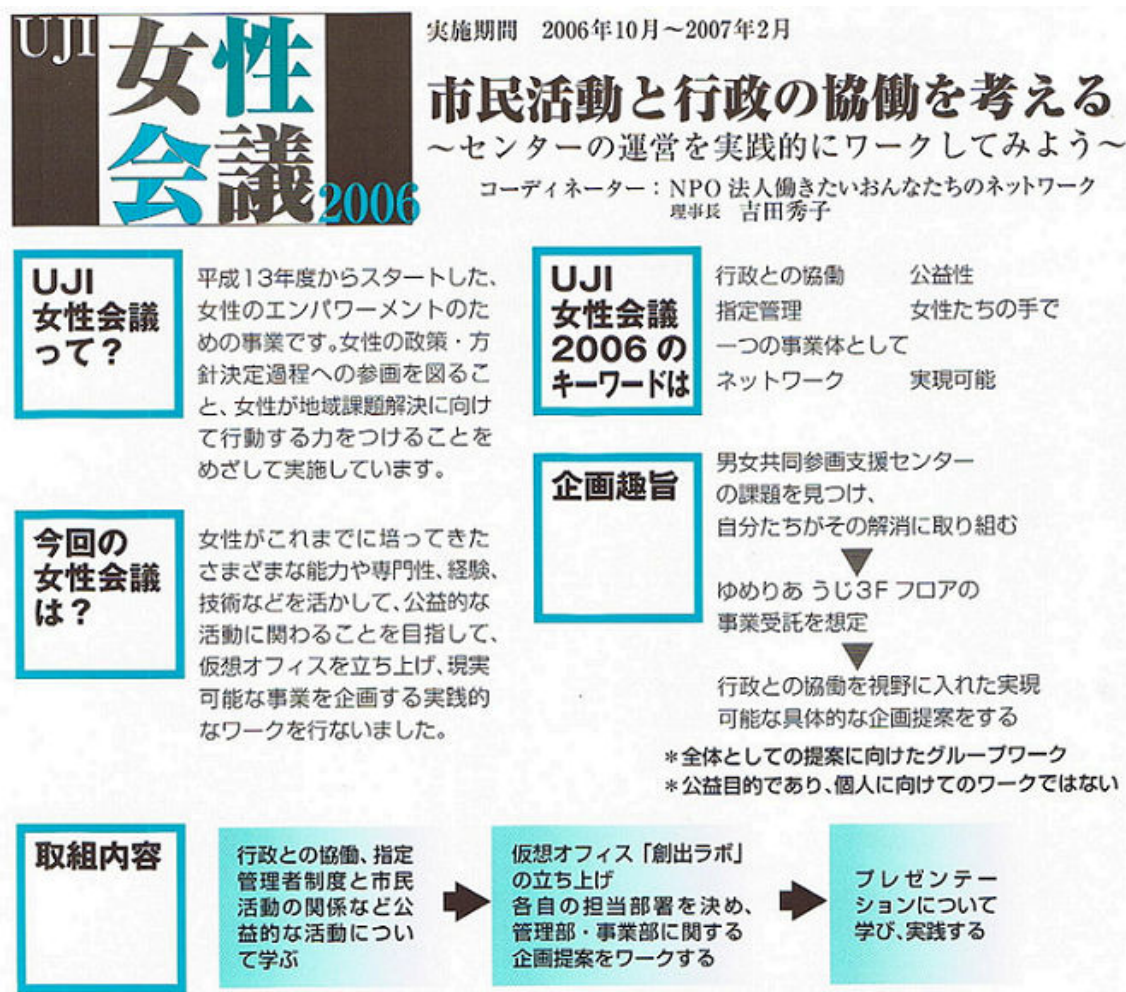


資料：市民活動支援ここからチャレンジ事業報告書

OUJI 女性会議

平成 13 年度から開催している UJI 女性会議では、平成 18 年度にはそれまでの個々に学ぶスタイルから 1 つのオフィスとして自らが仕事をするための事業提案書づくりとし、具体的に男女共同参画センターの指定管理者を想定した、実現可能性を重視した事業として実施された。

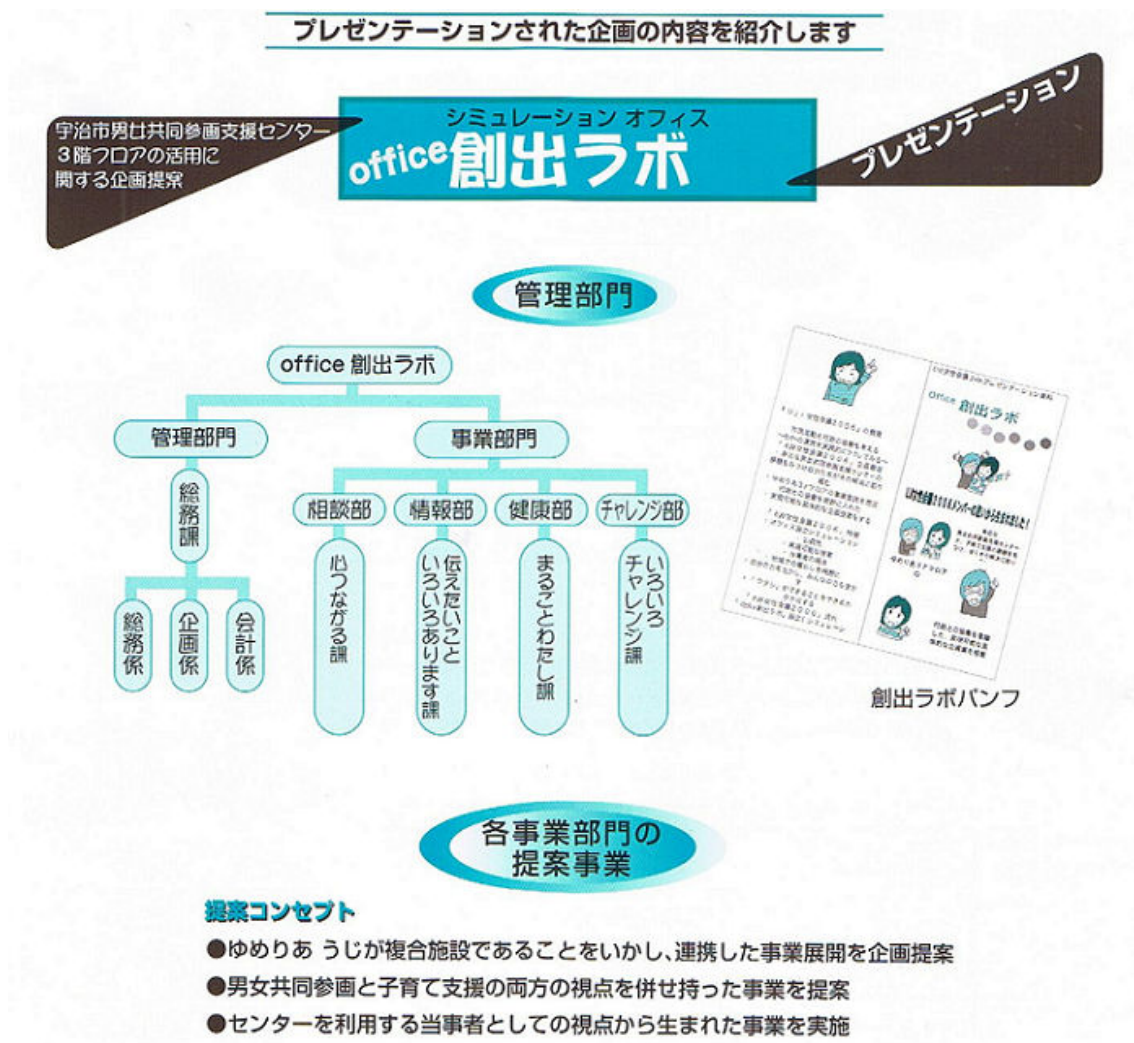
●UJI 女性会議 2006 の概要



資料：リズム VOL12（宇治市人権政策室男女共同参画課）

●UJI 女性会議 2006 プレゼンテーションの内容

各部門（相談部・情報部・健康部・チャレンジ部）ごとにプレゼンテーション実施



資料：リズム VOL12（宇治市人権政策室男女共同参画課）

●UJI 女性会議 2007 具体的な事業展開

UJI2006 の事業提案をベースにしつつ、具体的な企画を公益性・公共性のある事業として実施。

「あつたらしいな」から生まれる事業

個人から社会へ...

センターでは、女性が当事者としての思いを大切に、男女共同参画の視点を踏まえ地域課題解決に向けて行動する力をつけることをめざして、「UJI女性会議」という事業を実施しています。このページでは、「UJI女性会議 2007」から生まれた7つの事業を紹介します。

企画のコンセプト

地域課題解決 当事者の思いから生まれた事業
個人から社会へ わたしの問題はみんなの問題

★起業★

まちの事務屋さん

自分に合った働き方の提案

NPOのマネジメント→人材不足を補う

★地域コミュニティ★

カウンセリングルーム

悩みや苦しみの受容と共感

問題解決、改善へのサポート

地域に根ざしたカウンセリングルーム開設

転ばぬ先のバス

横浜地域のバス路線の見直しと延長を！

バスが必要なのは高齢者と子育て世代

高齢者の外出支援 「とじこもり育児」の予防

★共催事業として実施★

宇治おやこ☆スタンプラリー

●実施：育て！宇治っこプロジェクト

●2008年1月19日(土)

10:30~15:00

京都府の事業「子育て応援パスポート」を活用し、宇治橋通り商店街&宇治橋周辺でスタンプラリーと宇治散策を楽しむイベントを実施した。100組の親子が参加。

MAPづくりや子育て応援パスポート協賛店加盟の勧誘、当日の缶バッジづくりなどに、京都文教大学学生、「おとうさんと子どもが自由に遊ぶ会」などの協力を得た。→子育て世代のネットワークづくりへ



まるごとわたしカフェ

●実施：まるごとわたしネット

●2008年1月19日(土)

10:00~16:00

●センター3階 活動スペース

わたしの抱える問題をまるごと受け止め、わたしの居場所となるカフェをオープン。話すことによって気づき、問題解決につながるような場づくりと支援する人をセッティング。食を通して話せる雰囲気づくりにチャレンジした。→継続実施を計画中



ワーキングマザーたちのワークショップ

●実施：ワーキングマザーたちとキッズの会 Both

●2008年2月16日(土)・23日(土)

働くママたちが情報交流し、気軽に話せる居場所づくり+子どもとの交流。子どもに自分の仕事を伝える紙芝居づくりにもチャレンジ→ワーキングマザーのネットワークづくりに向けてスタート



母親の自尊感情を支える

カウンセリング&子どもの発達支援プログラム

●実施：発達障害児サポートの会・きらり

●2008年2月19日(火)・26日(火)

母親と軽度発達障害のある5・6歳の子どもを対象に実施。会場を分け、母親の自尊感情を支えるグループカウンセリングと子どもの発達支援プログラムを同時に実施した。→「発達障害児・親の会ジグソー」の立ち上げ



●UJI 女性会議 講座の開催概要 (UJI 女性会議 2008)

事業の企画から計画策定、実現可能性の検討、事業実施、評価までを段階を追って学習
各グループでは事業実施にあたり、個別で検討会を開催



●UJI 女性会議 2008 実際に実施された事業（3月14日開催）のチラシ

UJI女性会議
チャレンジ
個人のチカラを地域のチカラへ！

わたしのチャレンジ博覧会 in うじ
3月14日(土) 11:00～15:00
JR宇治駅前市民交流プラザ「ゆめりあ うじ」

アロマ 癒し カフェ

場所：3F やいば 宿木の間 (活動スペース)

宇治茶とハーブの **和**
からだよろこぶフレンドティー
1杯 200円
My湯呑ご持参の方は50円引き！

身近な人にしてあげたい
ハンドトリートメントのミニ講習 1回
手の暖かさと温もいは、最高のヒーリング(癒し)。
いつでもどこでも簡単にできる、心が温まるスキ
でコミュニケーションを...

企画・運営
aroma stok
～アロマ ストック～

お問い合わせ先
宇治市男女
(JR宇治駅前
宇治市宇治
TEL:0774

主催 宇治市男女共同参画支

UJI女性会議
チャレンジ
個人のチカラを地域のチカラへ！

“わたしのチャレンジ”博覧会 IN うじ
わたしのハレの日
ファッションショー

3月14日(土) 14:30～15:00

ゆめりあ うじ 4F

お気に入りの一着、袖を通したい着物など
思いの詰まった衣装を身にまとい、
ドレスアップして ウォーキンぐら～

ヘア、メイク、着付スタッフ
モデル、司会者

大募集

(ボランティア、年齢男女不問) **締切 3/6**

きらきらアップコーナー

11:00～12:00	ワンポイント メイクアドバイス	おとし 300円
12:00～13:00	ヘアアレンジ	おとし 300円
13:00～14:00	あろしさを生かした フチバッグづくり	おとし 300円

企画・運営
Liliflora-wedding
リリフローラ
ウェディング

問合せ/宇治市男女共同参画支援センター
JR宇治駅前市民交流プラザ ゆめりあ うじ

TEL 0774-39-9377

主催 宇治市男女共同参画支援センター

(2) 山形県の取り組み

山形県では、気づきの場や共有の場を提供する学習支援として、「チェリア de カフェ」「チェリア・シネマの集い」を開催しており、具体的な活動を行う女性リーダー育成のため、「チェリア塾」を実施している。

(※チェリア：山形県男女共同参画センターの愛称)

①気づきのきっかけ、共有の場づくり

○チェリア de カフェ開催

チェリアdeカフェ

好評開催中

平成18年1月に始まった
チェリアdeカフェが
3年目を迎えます!

チェリアdeカフェとは・・・

チェリアを知っていただくためのきっかけ作りとして始まった交流事業です。

平成19年度はボランティアの講師をお招きして、多彩な内容で毎月第2水曜日に開催しました。

これからも続きますので、ぜひ気軽にお立ち寄りください。



7月 年金講座



11月 ミニツリー

対象：どなたでも参加できます

日時：毎月第2水曜日 10:00～15:00 (出入り自由)

会場：チェリア団体・グループ活動室/託児室

参加費：無料 申し込み不要

駐車場：県営駐車場をご利用ください。

内容：毎月変わります。チェリアにお問い合わせください。

平成19年度開催メニュー

- 4月 四季の伝統行事を楽しもう!～手づくりこいのぼり・クラフト～
- 5月 あらっ なつかしい・・・ 昔遊びしましょ～お手玉・めんこ～
- 6月 ハワイの風をあなたに～フラダンス・モービル～
- 7月 身の毛もよだつ年金講座～年金についての講座～
- 9月 寸劇&フラワーアレンジメント
～寸劇「女だって尊重されたい!」・フラワーキャンドル作り～
- 10月 やります!ガマの油売り～ガマの油売りの実演～
- 11月 今から飾れるクリスマスリース・ミニツリー
～手作りのクリスマスリース&ミニツリー～
- 12月 ミニ置物で和の心にひたりましょう～型紙を使ったミニ置物作り～
- 1月 日本の心を伝えたい～お抹茶・ストレッチ体操～
- 2月 ほんわか春を呼ぶ♪エコタワシとマフラーづくり
～かぎ針を使った簡単な編物～
- 3月 思いつきしゃべってストレス発散すべ
～チェリアdeカフェパネルトーク～



9月 寸劇

これからの予定

4月は2周年記念事業を行います!豪華なゲストによるパネルディスカッション!!拡大版として土曜に開催します!

●第26回 チェリアdeカフェ●

～3人寄れば文殊の知恵～ 明日からの元気をうけおきます

4月19日(土)13:30～15:30まで(予定) 遊学館3階 第1研修室にて

元氣請負人は
こちらの3人です

山形県立米沢女子短期大学学長
上山市議会議員
山形県男女共同参画センター館長

遠藤 孝子氏
尾形みち子氏
金澤 和子氏

進行係 チェリアdeカフェ実行委員会委員長 井上 泰子氏

資料：チェリア vol.21

○チェリア・シネマの集い

男女共同参画週間を記念し、身近なところから男女共同参画に関心をもってもらうため県内の数地域で映画を上映。

平成 20 年度は、県内 4 地域で「歓喜の歌」（2008 年）を上映。

②女性リーダー育成の取り組み

○チェリア塾

■事業の経緯

1992 年～96 年に山形県で実施された「ミズ・コメット養成講座」（女性リーダー養成講座）が終了してから 10 年が過ぎ、次の世代のリーダーを養成することを目的として、2004 年に事業開始した。

■事業の目的

地域で男女共同参画社会づくりを推進するために、男女共同参画の視点で地域社会の課題を捉え、問題解決に向けて行動できる女性リーダーを育成する。

■目標

- ①男女共同参画の視点で地域社会の各分野の課題を捉え直し、課題解決に向けて主体的に行動する基本的知識と力を得る。
- ②地域での団体やグループリーダーとして活動する時に必要な情報取得の手法やコミュニケーション力を得る。
- ③参加者間のコミュニケーションを深め、新たなネットワークをつくる。

■事業の概要

【構成】

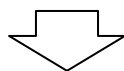
2年間で1クールとし、以下のようなステップで構成する。

STEP 1 わかる

チェリア塾

- ・ 基本的考えを学ぶ（男女共同参画社会の概要、基本的視点、考え方の学び）
- ・ 県外の先進的事例、活動を知る（県外施設視察、セミナー参加）
- ・ 発信者としての技法を身につける

1
年
目

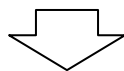


STEP 2 できる

フォローアップ講座

- ・ 実践力を身につける
- 塾生が主体となって参加型学習の進め方
- 自主企画講座に向けての問題の捉え方
- 企画・立案の方法
- 運営の仕方 等

2
年
目



STEP 3 やってみる

自主企画講座

- ・ STEP 1・2で学んだことを活かして実際に講座を実施し、その後振り返ることにより、より主体的に社会に参加する実践力を身につける

【期待される講座終了後の働き】

- ・ チェリアサポーター
- ・ 各地域の男女共同参画の視点を持った団体のリーダー、主要メンバーとして活動（NGO、NPO、各種団体（育児サークル、食育グループ、女性団体等）のリーダー、メンバー、PTA会長、自治会長等）
- ・ 各種審議委員、議員
- ・ 男女共同参画を理解し、推進していくことのできる公務員、教師

■講座の概要

第2期 平成 18～19 年度の講座例

□チャエリア塾

回	月日	会場	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
1	7月8日 (土)	遊学館	受付(9:30～)	開塾式 オリエン テーション	講義&グループワーク 『男女共同参画社会の推進』	講義&グループワーク 『リーダーのためのアサーティブラーニング』	昼食休憩	東北公益文科大学教授 伊藤真知子氏			
2	7月29日 (土)	遊学館		講義&グループワーク 『自分流情報の活用法』	講義&グループワーク 『リーダーのためのアサーティブラーニング』	講義&グループワーク 『リーダーのためのアサーティブラーニング』	昼食休憩	(有)インフォメーション・プランニング 結城美恵子氏			
3	8月24日 (木)		遊学館出発 (全行程、貸切バスでの移動)					市川房江記念会		JICA視察	
	8月25日 (金)		宿泊所出発	「女性と仕事の未来館」視察				国立女性教育会館交流事業参加			
	8月26日 (土)		宿泊所出発		栃木県男女共同参画センター視察						遊学館へ
4	9月9日 (土)	遊学館						公開講座 『教育をひらくジェンダー』 東京女学館副学長 天野正子氏	グループワーク		
5	10月28日 (土)	遊学館		講義&グループワーク 『リーダーのためのアサーティブラーニング』	講義&グループワーク 『リーダーのためのアサーティブラーニング』	講義&グループワーク 『リーダーのためのアサーティブラーニング』	昼食休憩	アサーティブ・ジャパン事務局長 中野満知子氏			
6	10月29日 (日)	遊学館			『リーダーのためのアサーティブラーニング』	『リーダーのためのアサーティブラーニング』	昼食休憩	アサーティブ・ジャパン事務局長 中野満知子氏			
7	11月25日 (土)	遊学館						公開講座 『家族のゆくえ～希望格差社会の中で～』 東京学芸大学教育学部教授 山田昌弘氏	グループワーク		
8	12月16日 (土)	遊学館		講義 『女性をめぐる職場の法律』 弁護士 佐藤由起子氏			昼食休憩	グループワーク 修了式			

□フォローアップ講座

回	月日	時間	テーマ
1	5月19日 (土)	受付 12:00 13:00～17:00 19:00～21:00	課題の発見・講座の企画を学ぶ (※宿泊研修)
2	5月20日 (日)	9:00～16:00	自主企画事業にむけて企画をする
3	6月10日 (日)	10:00～16:00	講座の運営を学ぶ
4	7月7日 (土)	10:00～16:00	プレゼンテーション・ファシリテーション力をつける

講師：宇都宮大学生涯学習教育研究センター 教授 廣瀬隆人氏

□自主企画講座

フォローアップ講座受講生
が3グループに分かれて、
右記の講座をそれぞれ、企
画運営。

山形県男女共同参画センター チェリア共催

連続講座 山形女からのプレゼンツ！

心が震える極上の時間

「ココロ」を吹かせに行こう！
山形を生きる女性たちに送る
自分の中の「元氣」を元々くための
三つのアプローチ

創・装・惣

11月17日(土)

注文の多い山形軒
～名刺作りとお茶会～
13:30～16:30
いつもの私、がんばる私、
どんな私もとっておき。
とびきりステキで記念に残る名刺をつくる
ハイクオリティな時間です。

12月15日(土)

自己満足の機パーティー in 山形
～とっておきの一着で～
10:30～14:30
会場 レストラン「エルミタージュ」
ランチ(2000円)
ゲスト ハッピー・クマルダスさん(バンブーデシ)
ライオン・オダムラさん(カナダ)
小林恵さん(韓国)
今日だけ!!は「家」で、
異国の風にあふれてみませんか?
今までとは違った心に出会えるパーティーです。

2008年1月19日(土)

うんまい山形語ってみっぺ!!
井戸端パーティー
13:30～15:30
(第一部)食の村『心を育む食生活とは』
講師：阿部哲夫氏(山形県健康福祉士会)
(第二部)井戸端パーティー
山形にはうんまい食べ物がたくさん!
庄内・最上・村山・置賜で
美味しさもイロイロ。
さあ、食べて、しゃべって
井戸端パーティー!

対象：山形県内の おおむね30～40代の女性 20名
参加費：無料(ただし12月15日はランチ代2,000円)
☆ 既婚あり(無料) 先着8名(1歳以上の未就学児) 要予約
申し込み：FAX 023-629-7752へ 11月2日(金)まで
問い合わせ：代表 090-6621-1277 創・装・惣 実行委員会

昨年テーマは「食」で学生女性たちが企画した。山形のくらしや生き方をみつめることを通じて学ぶパーティー形式の講座です。

■参加状況

年度	講座	受講者数(人)	修了者数(人)	平均年齢(才)
16	チェリア塾	26	24	43.1
17	フォローアップ講座・自主企画講座	18	18	—
	委嘱サポーター	16	—	—
18	チェリア塾	26	26	38.9
19	フォローアップ講座・自主企画講座	19	19	—
	委嘱サポーター	18	—	—
20	チェリア塾	28	—	38.5

■受講修了後の状況

1期修了生 18名のうち、

新たな団体設立	3名	
団体に加入	6名	
行政の審議委員等になった	8名	(※複数回答)

2期修了生 19名のうち、

新たな団体設立	1名	
団体に加入	2名	
行政の審議委員等になった	2名	(※複数回答)

■今後の講座

平成21年度では、チェリア塾のマスターコースを検討している。

□マスターコースの概要(案)

- チェリア塾1期生・2期生を対象に、よりステップアップした内容の研修を実施
- ・企画力、運営力、ファシリテーション力を向上する
 - ・1期生と2期生の交流を図り、ネットワークを構築する

5. 調査研究成果と課題

5-1. 調査研究成果

(1) 多様なきっかけづくり

女性の興味・関心や経験は多様であり、こうした女性が地域活動やまちづくりに参加するきっかけをつくっていくためには、さまざまな機会を通じて、日常生活や住んでいる地域の実態に即した課題をテーマにした具体的な内容の学習機会が提供されることが重要である。

自治体の側では女性のニーズや関心を把握するためには、男女共同参画事業等への参加者アンケートや地域の女性団体のリーダーへのヒアリング、また広く一般住民へのアンケート調査などを行っている。しかしながら、こうした調査ではもともと意識の高い人の意向である一方、なかなか参加が進まない若い世代の意向が把握できないなど、実際には十分にニーズや関心を把握できていない状況もある。また、情報発信の面でも、行政の広報誌やチラシ、インターネット・ホームページなど多様な方法によって行っているが、的確に情報が届いているのかが不明であるというような悩みを抱えている自治体もある。

さらに、現実的に多様化したニーズに応えられるほど多くの学習機会を与えることができない状況もあり、潜在的な女性リーダーの発掘や育成ができていないことがうかがえる。

こうしたなかで、自治体の中には、女性が気軽に集える場を設け、同じ関心や課題を感じている女性が、その課題を共有化し、活動のきっかけとなる機会を提供しているところもある。男女共同参画センター等をこうした利用に供しているところも多く、多様なニーズや関心に応えるきっかけづくりの場として機能していることが推測される。

また、新しい取り組みとして、女性リーダー養成講座等として受講生自らが事業企画、計画、実施、評価を体験学習するものや、修了生が企画する講座や仲間づくりを支援する事業を行っているところもあり、これらはより女性のニーズや関心に沿った多様なテーマの事業実施として参加者の広がりが期待される。

(2) 具体の事業実施を通じたスキルの向上

体験的な学習の効果が高いことは、従来、指摘されていることであるが、まちづくりや地域おこしにおいては、さらに重要であり、現場でのワークショップなど、具体的な場面での経験によって得られることが多い。女性リーダーからも、重要なのは座学ではなく経験を通じて、地域活性化やまちづくりに貢献していく現場であ

るとの意見が出されているように、実践的な活動を通じて、スキルアップを図れるような機会や場が重要である。

すなわち、具体的に学んだことを即実践へと展開し、自らの達成感とともに地域からの評価を受けながら、地域における立ち位置、存在感を実感できるような経験が得られること、このような学習機会が求められているといえる。

一方、全国の自治体における女性のための学習機会の提供については、多様な取り組みが進んでいるものの、女性リーダーが指摘した実践的な学習機会については、まだ少数の自治体の取り組みに留まるという状況にある。

また、活動を開始した女性グループに対しては、協働の視点で活動を支援する動きがみられ、これらは具体的な活動の機会としてリーダーやグループの育成に繋がる学習機会となっているが、女性リーダーの側からは協働といいながら自治体の非積極的な態度や予算ありきというような対応に不満を感じていることも指摘されている。

具体的な活動の場や機会を与えることには、住民に対する公平性や事業の成果・効果に対する責任など、自治体側の不安感もあるものと思われるが、まちづくりや地域おこしを進めていくパートナーを育成していくためには積極的な推進が求められる。

(3) 自治体・現場への支援

実際の学習支援や場の提供といった企画について、自治体の担当職員のみになされている実態があり、どのような学習支援が効果的であるかといった情報について、先進的な取り組み情報が十分に行きわたっていないという状況も伺える。

特に、まちづくりや地域おこしには、実践的な地域活動をテーマとして実施される学習機会や支援のほか、現場でのさまざまな課題や問題を具体的に解決できるノウハウや技術が習得できる学習支援が必要であり、そのためには単にテーマを模倣するのではなく、手法や内容を参考にできるような他の自治体の取り組み内容や方法、その成果といった情報が得られることが必要である。

また、自治体の側ではテーマに沿った内容や地域の課題を十分に把握している講師の確保に悩んでいるところも多く、地方部ではさらにその問題が大きくなっていることが推測される。

これらについては市区町村に対する都道府県の役割ともいえるが、都道府県の講座や企画内容が市区町村と重なるなど、十分に役割分担が図られているとはいえない状況もみられる。したがって、講師や効果的な学習支援内容等の情報とともに、特に十分な事業が実施できない小規模な自治体が多い地域については、広域的な対応や都道府県による学習機会の提供を行うなどの取り組みが必要である。

5-2. 課題

本調査研究では、全国的に地域活性化やまちづくり全般を対象とした女性への学習機会や支援の内容を検討したが、地域活性化やまちづくりはその内容も多岐であること、また都市部や地方部では女性の地域との関わりも異なることから、今後は、目的とする地域活性化やまちづくりの内容、地域特性への対応など、さらに詳細な学習機会や支援のあり方の検討が必要であると思われる。

現在、コミュニティの強化が大きな課題となっており、地域再生のカギとなっている。そうしたなかで女性の役割はさらに大きくなっていくものと思われる。多様な人々がお互いの意見を出し合い、合意形成を図りながら、コミュニティの強化、再生を図るためには、あらためてコミュニケーション・デザイン（話し合いの進め方、お互いが自分の意見を言える雰囲気づくり）能力が重要である。こうした学習機会については、地域の再生に重要な能力であり、特定のリーダーというより、多くの住民が子どもの時から生涯にわたって学ぶことができるような施策の検討が必要である。

また、女性のまちづくりや地域活動への参加を促進するための支援を行うに当たって最も重要なことは、多様な参加の仕方を認め、すべてを等しく評価することである。

特に、女性の場合、依然として子育てや家事、さらに介護という場面で必要とされることが多く、リーダーとして活動を引っ張っていた人でも、ひとたび介護が求められると活動の第一線から離れざるを得ないことが多い。多様な参加の仕方を等しく評価する仕組みがないと、そのリーダーは「私は活動ができなくなった」と否定的・悲観的に捉えたり、またグループメンバーも「あの人は、結局、活動しなくなった、できない人」と否定的に見ることになったりする。

まちづくりや地域おこしについては、リーダーとして活動を引っ張る人、サブリーダーとしてリーダーを補佐する人、グループメンバーや時々参加するだけの人、ある時は通りすがりに参加する人など、あらゆる参加が必要であり、そのいずれが欠けても地域活動は成り立たない。

生涯を通じて女性が地域活動を続けていくためには、さまざまな状況変化の中で、その状況に応じて地域活動を続けていける社会的認識とともに、活動者が思うように活動に取り組めない状況が生じた際に、自身や他者に対して、それを許容していく精神的な認識が必要である。

これについて有識者から「ピラミッド構造を倒して水平的に見る」ことが必要であるという指摘を受けた。ピラミッド構造とは、まちづくりや地域活動に関心のない層や潜在的な関心層から、関心を持ち、徐々に活動に参加していくなかで、グループを形成したり、他のグループに加わったりし、次第にまちづくりリーダーとなって活躍していくという構造を意味しているが、これは概念的に下部の階層からトップのまちづくりリーダーを目指すというような垂直的なイメージで捉えられやすい。

こうしたイメージでは、垂直的に上に行くことが望ましいことと捉えられ、状況変化や女性の生活環境等の変化で、活動が進まなくなった場合には、下に落ちるというイメージになってしまう。その場合には、本人は挫折感を味わい、周りのメンバーから極端な場合には「あのリーダーは活動から脱落してしまった」というように評価されてしまうこともありうる。

「ピラミッド構造を倒して水平的に見る」ということは、女性がその時々状況に応じて、ある時はリーダーとして地域活動を推進したり、ある時は子育てや介護をしながら、その時の状況に応じた地域活動に参加している状態を受け入れ、等しく評価していくということである。実際に会議や活動に参加する人だけでなく、子育てや介護などで家から出られない人であっても、まちづくりや地域活動に参加したいと思っている人も大勢いるはずである。こうした人たちをどうまちづくりや地域活動に参加させてあげられるかが重要である。このような社会的・精神的認識形成のための学習のあり方は非常に重要なテーマであり、今後、一層の調査研究が必要である。

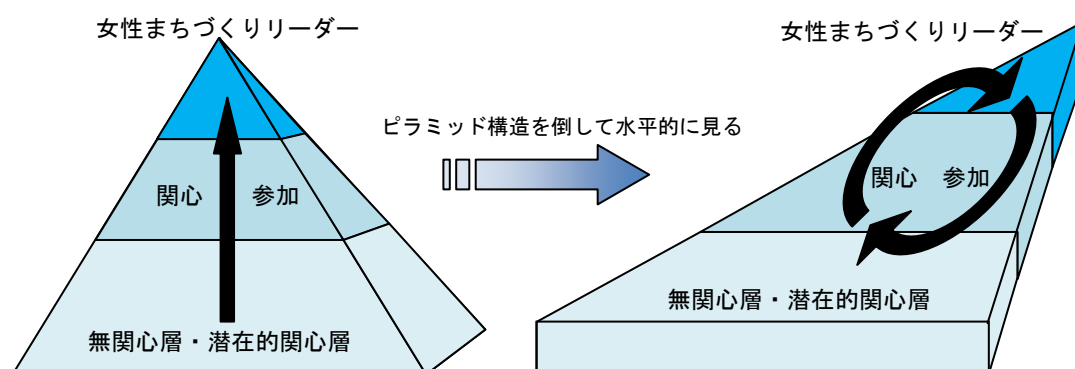


図 女性まちづくりリーダー育成と活動参加の考え方

資料編

男女共同参画社会に向けた教育・学習支援に係る実態アンケート調査

テーマ 女性が地域おこしやまちづくりに参画するための学習支援のあり方

アンケート調査ご協力のお願い

株式会社 グランドワークス
茂木 憲明

時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課『男女共同参画社会に向けた教育・学習支援に係る特別研究調査』の一環として、全国の自治体を対象に調査を行うこととなりました。

本調査では、地域おこしやまちづくりの担い手として期待される女性がこうした活動に参画するための学習支援のあり方をテーマとし、全国の自治体の取り組みの実態を把握するとともに、効果的な事業推進の要因や取り組みにおける問題点や課題をお聞きするために、標記アンケート調査として実施するものです。

つきましては、ご多忙中誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

ご記入にあたってのお願い

回答は、適当と思われる選択項目を選び、その選択項目の番号に○印をお付け下さい。また、記述式の解答欄にもなるべく具体的なお答えをご記入下さい。

本調査票にご記入の上、返信用封筒にて**平成 20 年 12 月 5 日（金）**までにご返信下さい。

調査のお問合せ先

調査内容・項目に関するお問い合わせ

(株)グランドワークス 篠崎・茂木

電話：03-5296-7751

注意事項

※本調査は、市区町村における地域おこし・まちづくりをご担当されている部署でご記入下さい。
設問内容により複数の部署が関わる場合は、それぞれご担当する部署にてご記入下さい。また、その場合は、大変恐縮ですが、企画調整のご担当で取りまとめてご返送下さい。

※本調査における「地域おこし」「まちづくり」については、**地域の生活課題（教育・福祉・環境・景観・まちづくり）等に対して地域の住民が主体となって取り組む活動や、商店街や地場産業、特産品開発等の地域活性化の取り組み**などとしてお考え下さい。生きがいづくり等であっても、趣味等のサークル活動等は除いて下さい。

※「女性まちづくりリーダー」とは、上記の地域おこしやまちづくりに取り組む地域の住民グループのなかで、中心的に活動している女性としてお考え下さい。

まず、貴自治体の取り組みの概要についてお聞きします。

問1 貴自治体では、これまで「地域おこし」や「まちづくり」において住民参画を進めるため、意識啓発や学習機会の提供といった取り組みを実施していますか。(該当するもの全てに○)

- | | |
|--|------------|
| 1. 地域おこしやまちづくりにあまり関心のない人など、一般の住民を対象に、意識啓発や知識習得を目的とした取り組み(セミナー、シンポジウムなど) | |
| 2. 一般の住民を対象に、地域における課題や地域に住む人々が抱えている課題の解決のための実践的活動を目的とした取り組み(連続講座、体験型ワークショップなど) | |
| 3. 地域おこしやまちづくりに関心を持っているが、まだ具体的な行動を起していない人を対象に、グループづくりやリーダー育成を目的とした取り組み(リーダー養成講座など) | |
| 4. 既に具体的な行動を行っている人を対象に、ネットワーク形成や活動の活発化を目的とした取り組み(イベント、ネットワーク会議、協議会など) | |
| 5. 既に具体的な行動を行っている人・グループを対象に、活動の支援を目的とした取り組み(活動費助成、事務スペースの無償提供など) | |
| 6. その他 | 具体的にお書き下さい |
| 7. 特に実施していない | |

問2 問1において、「1」～「6」を実施している自治体についてお聞きします。

これらの取り組みについて、以下の団体と連携・協働したものはありますか(該当するもの全てに○)

- | | |
|---|--|
| 1. 大学 | |
| 2. 大学以外の学校(具体的にお書き下さい) | |
| 3. 商工会議所・商工会 | |
| 4. その他の業界団体・組合(具体的にお書き下さい) | |
| 5. 商店街 | |
| 6. 企業 | |
| 7. 社会教育施設(公民館、生涯学習センター等。ただし、女性関連施設を除く。) | |
| 8. 女性関連施設(男女共同参画センター、女性センター、女性会館等) | |

問3 問1において、「1」～「6」を実施している自治体についてお聞きします。

全体的なこれらの学習機会への住民の参加(受講や参加)は概ねどのような状況でしょうか。(1つに○)

- | |
|---------------------------|
| 1. 概ね募集予定人員の8割以上の参加をみている |
| 2. 概ね5割～8割の参加をみている |
| 3. 半数以下となる事業が多い |
| 4. 多くの事業が、参加者を集めるのに苦労している |

問4 問1において、「1」～「6」を実施している自治体についてお聞きします。

全体的な受講や参加の動向はどのような状況でしょうか。(1つに○)

- | |
|---------------------------|
| 1. 参加人数が増えている |
| 2. 参加人数はあまり変化していない |
| 3. 参加人数が減っている |
| 4. 内容に応じて変化が異なり、わからない |
| 5. 定期的、経年で実施していないので、わからない |

問5 問1において、「1」～「6」を実施している自治体についてお聞きします。

全体的な事業の成果はどのような状況でしょうか。(1つに○)

- 1. 期待された以上の成果を得ている
- 2. 期待された程度の成果を得ている
- 3. 期待された成果は得ていない
- 4. 評価をしていないので、わからない

問6 貴自治体で実施している地域おこしやまちづくりにおける住民参加を進めるための学習機会や場について、これらの学習機会のうち、女性を主な対象とするものはありますか。(1つに○)

- 1. 女性を対象とするものがある
- 2. 女性を対象としたものではないが、結果的に女性の参加が中心となっているものがある
- 3. 女性を対象とするものはなく、参加者も特に意識していない

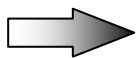
問7 問6で、「1. 女性を対象とするものがある」「2. 女性を対象としたものではないが、結果的に女性の参加が中心となっているものがある」を選んだ自治体にお聞きします。

貴自治体で実施している地域おこしやまちづくりにおける住民参加を進めるための学習機会や場の提供のうち、女性を対象としたもの、もしくは女性の参加が多いものについて、テーマ、方式、内容、参加者の特徴、開催状況をお書き下さい。

複数の学習機会がある場合は、回答シートをコピーするなどして、ご記入下さい。

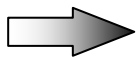
なお、既に一覧表等で取りまとめられている場合は、そちらを貼付していただいても結構です。

※レジメ、パンフレット、テキスト等、ご提供可能なものがありませんでしたら、お送り下さい。



P. 5 回答シートへご記入下さい

問8 女性を対象とした、もしくは女性の参加が多い、地域おこしやまちづくりにおける住民参加を進めるための学習機会や場の提供を行う際に、問題や課題に感じられていることはどのようなことでしょうか。



P. 6 回答シートへご記入下さい

問9 女性を対象とした、もしくは女性の参加が多い、地域おこしやまちづくりにおける住民参加を進めるための学習機会や場の提供といった事業の成果はどうでしょうか。(最も大きいもの1つに○)

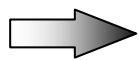
- 1. 参加者（事業に参加した女性）が中心となって、地域おこしやまちづくりに取り組むグループができた
- 2. 参加者（〃）が、既存のグループに加わり、グループの活動がさらに活発になった
- 3. 参加者（〃）が、地域住民に声をかけるなど、地域活動や行政との協働の機会に積極的に参加する住民が増えた
- 4. 参加者（〃）が、地域活動や行政との協働の機会に積極的に参加するようになった
- 5. その他 { 具体的にお書き下さい }
- 6. いまのところ具体的な成果は現れていない

続いて、女性まちづくりリーダーや女性まちづくりグループについてお聞きします。

問 10 地域おこしやまちづくりの活動における女性の参加はどうでしょうか。(1つに○)

1. 女性が中心となって活動しているグループがある
2. 特に女性が中心というグループはないが、積極的に女性が参加しているグループがある
3. 女性が中心のグループはなく、また積極的に女性が参加しているグループもない
4. グループとしての活動はないが、個人として積極的に参加・参画してくれる女性がいる
5. 女性の参加は少ない

問 11 女性ならではのユニークな取り組みや、他の自治体にも参考になるとと思われる女性まちづくりリーダーや女性まちづくりグループの活動がありましたら、その内容をご記入下さい。複数の事例がある場合は、回答シートをコピーするなどして、ご記入下さい。



P. 7 回答シートへご記入下さい

問 12 女性まちづくりリーダーや女性まちづくりグループの育成や活動の支援にあたって、特に配慮している点や課題、またその課題に対して改善した点がありましたら、ご記入下さい。

問 13 女性まちづくりリーダーやグループについて、今後さらに望むことはどのようなことですか。
(上位3つに○)

1. 専門知識やノウハウの蓄積
2. グループの組織運営能力の向上
3. 自立した活動を行うための財政的基盤の強化
4. グループに関する情報公開、情報発信力の強化
5. 人材の育成
6. 行政の制度やルールに対する理解
7. 行政との協働、パートナーシップ関係の強化
8. 他のグループ等とのネットワークの強化
9. その他

具体的にお書き下さい

問 14 女性まちづくりリーダーやグループに、さらに活躍を望む分野はどのような分野ですか。(上位2つに○)

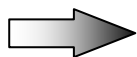
1. イベントの開催など、地域コミュニティの核となる地域社会の一体感を強める活動
2. 高齢者や障害者の支援、子育て支援など地域福祉等におけるボランティア活動
3. まちづくりや景観づくりにおける女性ならではの活動
4. 商店街活性化や地場産品開発、観光ボランティアなど、地域経済活性化の新たな担い手としての活動
5. 防犯パトロールや声かけ運動など、安心・安全の地域づくり活動
6. 在留外国人との共生など、当該地域が抱える課題解決のための活動
7. その他

具体的にお書き下さい

学習機会の提供や、女性まちづくりリーダー・グループの育成についてお聞きします。

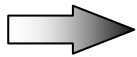
問 15 女性を対象とした学習機会の提供や、女性まちづくりリーダー・グループの育成、活動支援にあたって、他の自治体の取り組みについて気になる点はどのような点ですか。また聞いてみたいことはどのようなことでしょうか。

問 16 女性を対象とした学習機会の提供や、女性まちづくりリーダー・グループの育成、活動支援にあたって、国の施策等について期待する点や、充実を望む点はどのようなことでしょうか。



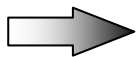
問7（女性を対象とした学習機会の状況等） 回答シート

テーマ	
目的	
開催方式 (セミナー形式、ワークショップなど)	
内容	
女性を対象とすることで配慮していること	
開催状況 (回数等) 参加状況 (参加人数等)	
成果 (女性リーダーやグループ、NPOの誕生など)	



問8（女性を対象とした学習機会の提供にあたっての課題等） 回答シート

住民のニーズや 関心の把握につ いて	
テーマや企画内 容について	
募集や広報の仕 方について	
教材やテキスト について	
講師について	
行政内の体制に ついて	
その他	



問 11（女性まちづくりリーダー・グループの活動状況等） 回答シート

活動テーマ	
活動内容 (特筆すべき点)	
活動の成果	
行政との協働の 状況	
行政の支援内容	
今後、ヒアリングをお願いした場合、紹介は可能でしょうか。 1. 紹介可能 2. 紹介不可	

連絡先

貴自治体名・部署名	
電話番号	
ご記入者ご氏名・役職	

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

男女共同参画社会に向けた教育・学習支援に係る実態アンケート調査

テーマ 女性が地域おこしやまちづくりに参画するための学習支援のあり方

アンケート調査ご協力のお願い

株式会社 グランドワークス
茂木 憲明

時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課『男女共同参画社会に向けた教育・学習支援に係る特別研究調査』の一環として、全国の自治体を対象に調査を行うこととなりました。

本調査では、地域おこしやまちづくりの担い手として期待される女性がこうした活動に参画するための学習支援のあり方をテーマとし、全国の自治体の取り組みの実態を把握するとともに、効果的な事業推進の要因や取り組みにおける問題点や課題をお聞きするために、標記アンケート調査として実施するものです。

つきましては、ご多忙中誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

ご記入にあたってのお願い

回答は、適当と思われる選択項目を選び、その選択項目の番号に○印をお付け下さい。また、記述式の解答欄にもなるべく具体的なお答えをご記入下さい。

本調査票にご記入の上、返信用封筒にて**平成 20 年 12 月 5 日（金）**までにご返信下さい。

調査のお問合せ先

調査内容・項目に関するお問い合わせ

(株)グランドワークス 篠崎・茂木

電話：03-5296-7751

注意事項

※本調査は、都道府県における地域おこし・まちづくりをご担当されている部署でご記入下さい。
設問内容により複数の部署が関わる場合は、それぞれご担当する部署にてご記入下さい。また、その場合は、大変恐縮ですが、企画調整のご担当で取りまとめてご返送下さい。

※本調査における「地域おこし」「まちづくり」については、**地域の生活課題（教育・福祉・環境・景観・まちづくり）等に対して地域の住民が主体となって取り組む活動や、商店街や地場産業、特産品開発等の地域活性化の取り組み**などとしてお考え下さい。生きがいづくり等であっても、趣味等のサークル活動等は除いて下さい。

※「女性まちづくりリーダー」とは、上記の地域おこしやまちづくりに取り組む地域の住民グループのなかで、中心的に活動している女性としてお考え下さい。

まず、貴都道府県の取り組みの概要についてお聞きします。

問1 貴都道府県では、これまで「地域おこし」や「まちづくり」において住民参画を進めるため、意識啓発や学習機会の提供といった取り組みを実施していますか。（該当するもの全てに○）

- | | |
|--|--------------|
| 1. 地域おこしやまちづくりにあまり関心のない人など、一般の住民を対象に、意識啓発や知識習得を目的とした取り組み（セミナー、シンポジウムなど） | |
| 2. 一般の住民を対象に、地域における課題や地域に住む人々が抱えている課題の解決のための実践的活動を目的とした取り組み（連続講座、体験型ワークショップなど） | |
| 3. 地域おこしやまちづくりに関心を持っているが、まだ具体的な行動を起していない人を対象に、グループづくりやリーダー育成を目的とした取り組み（リーダー養成講座など） | |
| 4. 既に具体的な行動を行っている人を対象に、ネットワーク形成や活動の活発化を目的とした取り組み（イベント、ネットワーク会議、協議会など） | |
| 5. 既に具体的な行動を行っている人・グループを対象に、活動の支援を目的とした取り組み（活動費助成、事務スペースの無償提供など） | |
| 6. その他 | （具体的にお書き下さい） |
| 7. 特に実施していない | |

問2 問1において、「1」～「6」を実施している都道府県についてお聞きします。

これらの取り組みについて、以下の団体と連携・協働したものはありますか。

（該当するもの全てに○）

- | | |
|---|--|
| 1. 大学 | |
| 2. 大学以外の学校（具体的にお書き下さい） | |
| 3. 商工会議所・商工会 | |
| 4. その他の業界団体・組合（具体的にお書き下さい） | |
| 5. 商店街 | |
| 6. 企業 | |
| 7. 社会教育施設（公民館、生涯学習センター等。ただし、女性関連施設を除く。） | |
| 8. 女性関連施設（男女共同参画センター、女性センター、女性会館等） | |

問3 問1において、「1」～「6」を実施している都道府県についてお聞きします。

全体的なこれらの学習機会への住民の参加（受講や参加）は概ねどのような状況でしょうか。

（1つに○）

- | |
|---------------------------|
| 1. 概ね募集予定人員の8割以上の参加をみている |
| 2. 概ね5割～8割の参加をみている |
| 3. 半数以下となる事業が多い |
| 4. 多くの事業が、参加者を集めるのに苦労している |

問4 問1において、「1」～「6」を実施している都道府県についてお聞きします。

全体的な受講や参加の動向はどのような状況でしょうか。（1つに○）

- | |
|---------------------------|
| 1. 参加人数が増えている |
| 2. 参加人数はあまり変化していない |
| 3. 参加人数が減っている |
| 4. 内容に応じて変化が異なり、わからない |
| 5. 定期的、経年で実施していないので、わからない |

問5 問1において、「1」～「6」を実施している都道府県についてお聞きします。

全体的な事業の成果はどのような状況でしょうか。(1つに○)

- 1. 期待された以上の成果を得ている
- 2. 期待された程度の成果を得ている
- 3. 期待された成果は得ていない
- 4. 評価をしていないので、わからない

問6 貴都道府県で実施している地域おこしやまちづくりにおける住民参加を進めるための学習機会や場について、これらの学習機会のうち、女性を主な対象とするものはありますか。(1つに○)

- 1. 女性を対象とするものがある
- 2. 女性を対象としたものではないが、結果的に女性の参加が中心となっているものがある
- 3. 女性を対象とするものはなく、参加者も特に意識していない

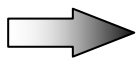
問7 問6で、「1. 女性を対象とするものがある」「2. 女性を対象としたものではないが、結果的に女性の参加が中心となっているものがある」を選んだ都道府県にお聞きします。

貴都道府県で実施している地域おこしやまちづくりにおける住民参加を進めるための学習機会や場の提供のうち、女性を対象としたもの、もしくは女性の参加が多いものについて、テーマ、方式、内容、参加者の特徴、開催状況をお書き下さい。

複数の学習機会がある場合は、回答シートをコピーするなどして、ご記入下さい。

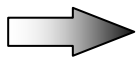
なお、既に一覧表等で取りまとめられている場合は、そちらを貼付していただいても結構です。

※レジメ、パンフレット、テキスト等、ご提供可能なものがありましたら、お送り下さい。



P. 5 回答シートへご記入下さい

問8 女性を対象とした、もしくは女性の参加が多い、地域おこしやまちづくりにおける住民参加を進めるための学習機会や場の提供を行う際に、問題や課題に感じられていることはどのようなことでしょうか。



P. 6 回答シートへご記入下さい

問9 女性を対象とした、もしくは女性の参加が多い、地域おこしやまちづくりにおける住民参加を進めるための学習機会や場の提供といった事業の成果はどうでしょうか。(最も大きいもの1つに○)

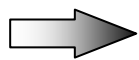
- 1. 参加者（事業に参加した女性）が中心となって、地域おこしやまちづくりに取り組むグループができた
- 2. 参加者（〃）が、既存のグループに加わり、グループの活動がさらに活発になった
- 3. 参加者（〃）が、地域住民に声をかけるなど、地域活動や行政との協働の機会に積極的に参加する住民が増えた
- 4. 参加者（〃）が、地域活動や行政との協働の機会に積極的に参加するようになった
- 5. その他 { 具体的にお書き下さい }
- 6. いまのところ具体的な成果は現れていない

続いて、女性まちづくりリーダーや女性まちづくりグループについてお聞きします。

問 10 地域おこしやまちづくりの活動における女性の参加はどうでしょうか。(1つに○)

1. 女性が中心となって活動しているグループがある
2. 特に女性が中心というグループはないが、積極的に女性が参加しているグループがある
3. 女性が中心のグループはなく、また積極的に女性が参加しているグループもない
4. グループとしての活動はないが、個人として積極的に参加・参画してくれる女性がいる
5. 女性の参加は少ない

問 11 女性ならではのユニークな取り組みや、他の都道府県にも参考になると思われる女性まちづくりリーダーや女性まちづくりグループの活動がありましたら、その内容をご記入下さい。複数の事例がある場合は、回答シートをコピーするなどして、ご記入下さい。



P. 7 回答シートへご記入下さい

問 12 女性まちづくりリーダーや女性まちづくりグループの育成や活動の支援にあたって、特に配慮している点や課題、またその課題に対して改善した点がありましたら、ご記入下さい。

問 13 女性まちづくりリーダーやグループについて、今後さらに望むことはどのようなことですか。
(上位3つに○)

1. 専門知識やノウハウの蓄積
2. グループの組織運営能力の向上
3. 自立した活動を行うための財政的基盤の強化
4. グループに関する情報公開、情報発信力の強化
5. 人材の育成
6. 行政の制度やルールに対する理解
7. 行政との協働、パートナーシップ関係の強化
8. 他のグループ等とのネットワークの強化
9. その他

具体的にお書き下さい

問 14 女性まちづくりリーダーやグループに、さらに活躍を望む分野はどのような分野ですか。(上位2つに○)

1. イベントの開催など、地域コミュニティの核となる地域社会の一体感を強める活動
2. 高齢者や障害者の支援、子育て支援など地域福祉等におけるボランティア活動
3. まちづくりや景観づくりにおける女性ならではの活動
4. 商店街活性化や地場産品開発、観光ボランティアなど、地域経済活性化の新たな担い手としての活動
5. 防犯パトロールや声かけ運動など、安心・安全の地域づくり活動
6. 在留外国人との共生など、当該地域が抱える課題解決のための活動
7. その他

具体的にお書き下さい

問 15 市区町村の女性まちづくりリーダーやグループの育成、活動支援に対して、都道府県としてどのような支援を行っていますか。(該当するもの全てに○)

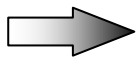
1. 都道府県主催のリーダー養成講座・研修を開催する
2. 都道府県主催の関係者連絡会議を開催する
3. 都道府県から市区町村担当者に向けて情報提供を行う
4. 都道府県の発行物で市区町村の女性まちづくりリーダーやグループを紹介する
5. 都道府県において市区町村が実施する事業について費用を支援する
6. その他

具体的にお書き下さい

学習機会の提供や、女性まちづくりリーダー・グループの育成についてお聞きします。

問 16 女性を対象とした学習機会の提供や、女性まちづくりリーダー・グループの育成、活動支援にあたって、他の都道府県の取り組みについて気になる点はどのような点ですか。また聞いてみたいことはどのようなことでしょうか。

問 17 女性を対象とした学習機会の提供や、女性まちづくりリーダー・グループの育成、活動支援にあたって、国の施策等について期待する点や、充実を望む点はどのようなことでしょうか。



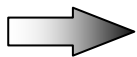
問7（女性を対象とした学習機会の状況等） 回答シート

テーマ	
目的	
開催方式 (セミナー形式、ワークショップなど)	
内容	
女性を対象とすることで配慮していること	
開催状況 (回数等) 参加状況 (参加人数等)	
成果 (女性リーダーやグループ、NPOの誕生など)	



問8（女性を対象とした学習機会の提供にあたっての課題等） 回答シート

住民のニーズや 関心の把握につ いて	
テーマや企画内 容について	
募集や広報の仕 方について	
教材やテキスト について	
講師について	
行政内の体制に ついて	
その他	



問 11（女性まちづくりリーダー・グループの活動状況等） 回答シート

活動テーマ	
活動内容 (特筆すべき点)	
活動の成果	
行政との協働の 状況	
行政の支援内容	
今後、ヒアリングをお願いした場合、紹介は可能でしょうか。 1. 紹介可能 2. 紹介不可	

連絡先

都道府県名・部署名	
電話番号	
ご記入者ご氏名・職名	

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。